

令和元年度

(2019年度)

社会福祉法人 東蒲原福祉会

事業報告書

東 蒲 の 里

東 蒲 の 里 み か わ 園

ど ん ぐ り

目

次

I 令和元年度社会福祉法人東蒲原福祉会 法人事務局 事業報告

	頁
1. 入職・離職状況	1
2. 人員構成	1
3. 法人委員会開催状況	
3-1. 組織強化チーム	2
3-2. サービス管理向上チーム	3
3-3. スキルアップチーム	4
4. 東蒲原福祉会研修報告	6

1 入職・離職状況

1. 令和1年度入職・離職状況（常勤8時間職員対象）

名称	法人全体		法人本部		東蒲の里 (とこなみ含む)		みかわ園		どんぐり	
職員数 (4月1日)	130人		4人		48人		41人		37人	
	入職	離職	入職	離職	入職	離職	入職	離職	入職	離職
4月	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
10月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
12月	1	2	0	0	0	1	0	0	1	1
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	3	0	0	0	0	0	1	0	2
3月	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
合計	1	10	0	0	0	3	0	2	1	5
入職率	0.76%		0.00%		0.00%		0.00%		2.70%	
離職率	7.69%		0.00%		6.25%		4.87%		5.40%	

※ 平成30年度の法人全体の入職率10.61%（人）、離職率8.33%（人）

【計算式】

入職率＝増加労働者数÷年初の全労働者数×100

離職率＝減少労働者数÷年初の全労働者数×100

【参考】

平成30年度の介護業界全国平均離職率16.2%

2 人員構成

1. 令和1年度事業所別・雇用形態別職員数（令和2年3月31日現在）

雇用形態	法人全体	法人本部	東蒲の里	みかわ園	どんぐり
職員	122人	4人	46人	39人	33人
臨時的採用職員	0人	0人	0人	0人	0人
パート職員	55人	4人	20人	19人	12人
シニア職員	8人	0人	0人	1人	7人
登録ヘルパー	10人	0人	0人	0人	10人
合計	195人	8人	66人	59人	62人

3-1 組織強化チーム

1. 委員会開催状況

開催日	協議事項等
6月21日	○令和元年度事業計画について
7月11日	○現行制度の課題整理について ○見直しのスケジュールについて
8月23日	○現行制度の見直しに関する検討方法について ○組織強化チームの検討課題について

2. 結果及び課題

(1) 人事考課制度について

- ・令和元年度の事業計画では人事考課制度の見直しを実施する予定としていたが、組織強化チームの委員の参加調整ができなかったことから活動が停滞した。

(2) 今後の取組について

- ・今年度は計画通りの活動が困難となったことから、次年度は人事考課制度の見直しについて、効率よく検討を行えるようにする。組織強化のために組織の効率化についても検討を継続していきたい。

3-2 サービス管理向上チーム

1. 委員会開催状況

開催日	協議事項
5月30日 (ワーキング)	○令和元年度事業取り組み検討 ・令和元年度事業計画
7月25日 (ワーキング)	○各施設における令和元年度QCサークル活動の進捗状況(1回目) ・東蒲の里：テーマ「園内研修の出席率について」 ・東蒲の里みかわ園、短期入所：テーマ「機能訓練を実施するため」 ・ケアセンターどんぐりグループホーム：テーマ「ヒヤリハットをあげるために」 ・ケアセンターどんぐり小規模多機能：テーマ「1日の水分摂取量を増やす」
1月25日 (ワーキング)	○各施設における令和元年度QCサークル活動の進捗状況(2回目) ・東蒲の里：テーマ「園内研修の出席率について」 ・東蒲の里みかわ園、短期入所：テーマ「機能訓練を実施するため」 ・ケアセンターどんぐりグループホーム：テーマ「ヒヤリハットを挙げるために」 ・ケアセンターどんぐり小規模多機能：テーマ「1日の水分摂取量を増やす」

2. 結果及び課題

(1) 各施設におけるQC活動について

- ・各施設において、課題解決に向けて、「現状把握」、「課題の分析」、「対策の立案・実施」、「効果の確認」の4ステップを段階的に行った。
改善策の実施において、テーマが大きいと検討するチームだけで行うことができず、効果が見えない施設もあった。

(2) 今後の取り組みについて

- ・平成29年度から3年間各施設において様々なQC活動を行ってきており、その活動が定着しているか、また再検討の必要性を検討していく。

3-3 スキルアップチーム

1. 委員会開催状況

開催日	協議事項等
5月22日	<ul style="list-style-type: none"> ○令和元年度研修計画について <ul style="list-style-type: none"> ・東蒲原福社会研修別対象職員一覧表の確認 ・1-1から1-5までの研修のフォローについて ○各研修の役割分担について ○新任職員研修等の調整・実施方法について ○法人スキルアップチーム会議日程確認
6月19日	<ul style="list-style-type: none"> ○令和元年度研修計画について ○研修役割分担について <ul style="list-style-type: none"> ・新任職員研修に実施報告
7月17日	<ul style="list-style-type: none"> ○指導力向上研修について <ul style="list-style-type: none"> ・次年度の研修講師について ○各研修の実施計画について <ul style="list-style-type: none"> ・異業種研修・同業種研修
9月18日	<ul style="list-style-type: none"> ○各研修の進捗状況について <ul style="list-style-type: none"> ・異業種研修・同業種研修 ○指導力向上研修の予定・実施方法について ○4年目研修について
10月16日	<ul style="list-style-type: none"> ○研修の進捗状況について <ul style="list-style-type: none"> ・異業種研修・同業種研修終了 ○5年目振り返り研修の計画について <ul style="list-style-type: none"> ・実施要項・案内文作成
12月18日	<ul style="list-style-type: none"> ○研修の進捗状況について <ul style="list-style-type: none"> ・5年目研修終了 ○年度途中の新任職員研修について <ul style="list-style-type: none"> ・機材・会場・資料準備等の担当
1月15日	<ul style="list-style-type: none"> ○研修の進捗状況について <ul style="list-style-type: none"> ・4年目研修について ○来年度の研修内容について <ul style="list-style-type: none"> ・新任職員研修・法人合同研修について

2. 結果及び課題

(1) 法人研修体系

- ・ケアセンターどんぐりの旧朝日より継続された職員全員に対して東蒲原福社会研修体系に沿った研修ができるよう、令和元年度から令和3年までの3年間をかけて、3年目研修・4年目研修・5年目研修の各グループに分け研修を実施した。

(2) 新任職員研修

- ・新任職員研修については、中途採用が多かったため研修開催時期をずらして5月(4名)・12月(1名)の2回実施した。研修時間や研修内容の見直しを行ったことで効果的な研修の実施や講師の研修日程調整もスムーズとなった。

(3) 同業種研修

- ・同業種研修については、社会福祉法人南福社会 特別養護老人ホーム虹の里と社会福祉法人二王寺会 特別養護老人ホームとっさかに協力して頂き、1名の職員が2日間の研修を実施した。他事業所で行っている業務内容や仕事の仕方などを実際に見ることで、自身の仕事の仕方などを見直す機会となった。

(4) 異業種研修

- ・異業種研修については、「月岡温泉ホテル泉慶」に協力していただき、1名の職員が研修を実施した。お客様の立場に立った細やかな対応を学ぶことができた。

(5) 指導力向上研修

- ・Aグループ 9/26・27 Bグループ 10/10・11 の2回に分けて11名の研修を実施し、考えをまとめる・伝える・教える・表現する方法について学んだ。
また、来年度に向けて新たに講師となる職員に研修に参加してもらった。

(6) 5年目振り返り研修

- ・Aグループ 5/11 午前 Bグループ 5/11 午後 の2回に分けて10名の研修を実施した。自身の持つ課題や今後について法人内の他職員と話す機会となり、先輩職員からの助言を得ながら、今後の進路について考えることができた。

(7) 今後の取り組み

- ・東蒲原福祉会研修体系での研修を継続し、スムーズな研修が実施できるよう対象職員の研修の計画・実施等の進捗状況を確認しながら進めていく。
また、ケアセンターどんぐりの旧朝日より継続された職員に対しての研修について、1年目が終了した。研修体系に沿った研修が終了できるよう次年度も継続して実施していく。
- ・コロナウイルス感染による感染拡大防止策が図られている中、今後の状況により計画通りの研修実施ができない可能性もでてきている。感染症予防策を取りながら、必要な研修をどのように行っていくか検討が必要である。

4 東蒲原福社会研修報告

1. 研修別内容

研修名	開催日	内容・講師	対象職員	参加者数
新任研修	年度中	東蒲原福社会新任職員研修 講師：東蒲原福社会 職員	新任職員	5名

2. 結果及び課題

- (1) 東蒲原福社会研修体系に基づいた研修の未実施。役員研修については、新型コロナウイルス感染症予防のため実施できなかった。
- (2) 今後の取組について
 - ・就業時間を考慮した研修の日程や時間帯を検討し、感染症対策をとったうえでの研修を計画し、多くの職員が研修に参加できるように計画したい。

Ⅱ 令和元年度社会福祉法人東蒲原福社会

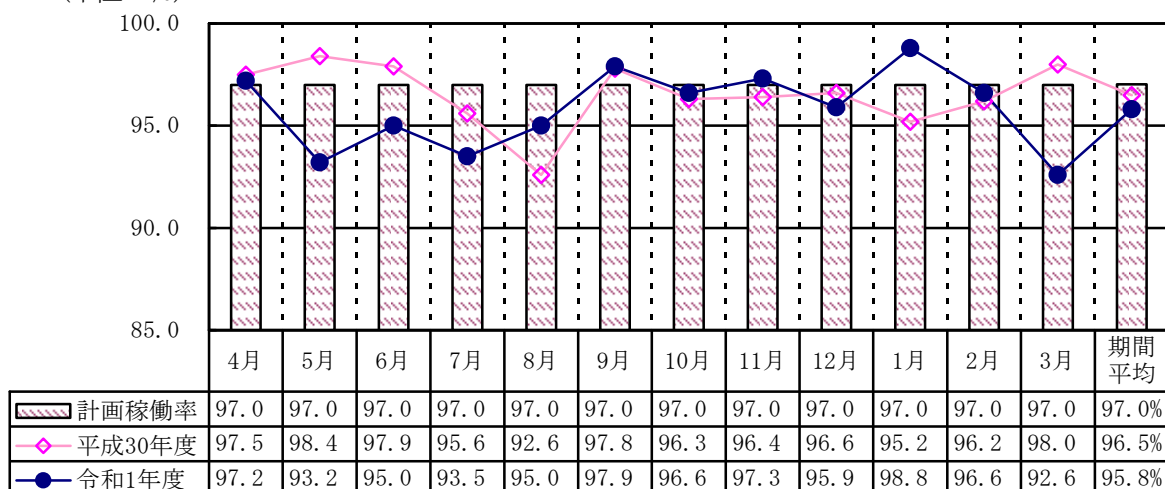
東蒲の里 事業報告

	頁
1. 介護老人福祉施設（特 養）	7
2. 短期入所生活介護事業（ショートステイ）	10
3. 通所介護事業（デイサービス）	13
4. 居宅介護支援事業	18
5. 障害者共同生活援助事業（グループホーム）	21
6. 障害者短期入所事業（ショートステイ）	24
7. 障害者生活介護事業	26
8. 放課後等デイサービス事業	30
9. 東蒲の里研修報告	34
10. 東蒲の里ボランティア活動状況	37
11. 東蒲の里災害対策	38
12. 東蒲の里苦情受付・対応報告	40
13. 東蒲の里事故等発生状況報告	42
14. とこなみ事故等発生状況報告	44

1 介護老人福祉施設

1. 施設利用稼働率

(単位：%)



※稼働率について

・介護老人福祉施設の1日定員(50人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が17,530日であったことから

$$\frac{17,530 \text{ 日}}{18,300 \text{ 日 (50人} \times 366 \text{ 日)}} = 0.9579 \quad \text{稼働率 } 95.8\%$$

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

2. 要介護度別入所者数(令和2年3月31日現在)

	要介護度					平均
	1	2	3	4	5	
平成30年度	0	0	5	23	22	4.34
令和1年度	0	0	4	26	20	4.32

3. 要介護度状態の変化(令和2年3月31日にご利用されている方を対象としています。)

内容	要介護
改善	1人
維持	47人
悪化	2人
合計	50人

4. 年間行事報告

月 別	実 施 行 事	内 容
4月19日	観桜会	・バスハイキングで阿賀町内にある桜並木に出かけた。 桜の下で、お茶を飲み、写真撮影を行った。
7月7日	七夕会	・ご利用者、ご家族から願いを書いていたいただいた短冊をつけて、七夕飾りと一緒に写真撮影を行った。
8月4日	納涼祭	・昼食バイキングや屋台での軽食サービス、また地域のボランティアによる出店や津川民謡保存会の歌と踊りを楽しんでいただいた。
9月14日	敬老会	・式典と祝宴を行い、余興には『彩謡会』の歌と踊りで楽しんでいただいた。
1月1日～ 2日	お正月 お楽しみ会	・お楽しみ会として、お汁粉、甘酒を用意し、ご利用者に正月の雰囲気味わっていただいた。
1月15日	小正月	・職員と一緒に団子刺しを行い、ご利用者に楽しんでいただいた。
2月3日	節 分	・鬼に扮した職員が各居室や食堂を回り、ご利用者に豆まきをしていただいた。
3月3日	ひな祭り	・雛壇を設置し、雛飾りの観賞と記念撮影を行ったあと、食堂においてケーキを食べていただいた。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の要望により、外食や買い物などの外出を随時行った。 ・阿賀町「狐の嫁入り」の花嫁花婿の訪問、地域のボランティアや小学生のボランティア訪問を通して地域との交流を図った。 ・津川地区等への外出を行い地域交流を図った。 ・8月14日に地域の花火大会が催され、食堂で、スイカを食べながら花火見物を行った。 ・クリスマス会について、風邪症状の利用者がおり、余興と会食は中止し、後日、プレゼントを配り、ケーキを食べていただいた。

5. 事業報告(総括)

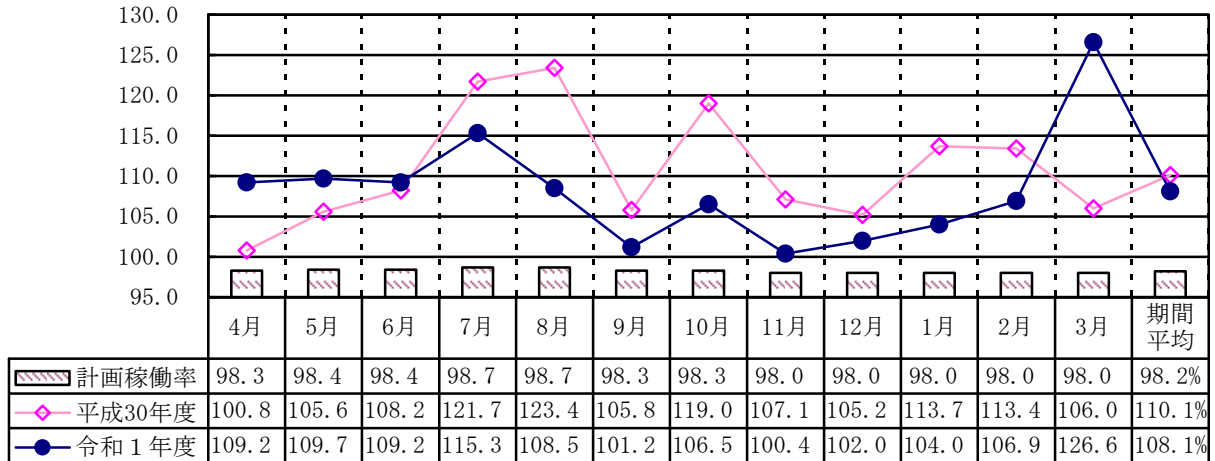
<p>個々のご利用者の求める介護ニーズの変化に対応するため、医療的ケア及び認知症ケアの専門性を高めます。</p>	
取 組 事 項	<p>①認知症ケアの充実のため、専門性の高い職員を養成するよう認知症実践者研修や認知症リーダー研修など各種研修に参加し、事業所内研修を通じて、職員の知識の向上とケアの実践を行います。</p> <p>②介護、看護が連携した情報共有を基に、個々のご利用者に応じた医療的ケアが行えるよう、現状のケア方法の見直しを行い、実践に繋げていきます。</p>
実 績	<p>①新潟県の研修に申し込んだが、他の申込者多数のため抽選から外れた。また、新型コロナウイルスの影響により、研修が中止になるなど、外部研修への参加ができなかった。</p> <p>②カンファレンスの際に、各職種から様々な意見が上がる中で、マットレスの変更、吸引の実施時間の変更などを行った。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経験年数の少ない介護職員が増えた中で、その職員に講義と実践を繰り返す介護力向上研修(Web研修)を受講させ、認知症ケアの充実を図ります。 ・ 今の勤務体制に合った業務マニュアル、手順書の見直しを行います。

<p>津川地区を中心にセーフティネットとしての役割を果たすと共に、ご利用者が地域と繋がりのある生活ができる施設を目指します。</p>	
取 組 事 項	<p>①ご利用者が地域との繋がりを実感できるよう、住み慣れた地域に外出する機会を増やします。</p> <p>②地域の訪問活動や交流会に参加し、施設での取り組みの内容や介護技術等を紹介します。</p>
実 績	<p>① 各地区の敬老会の参加、花火見物、買い物など、施設の外に出かける機会を作ることができた。</p> <p>② 区長を通じて地域住民に集まっていたいただき、各専門職による関節や筋肉を動かす体操の説明を行い、住民の方と一緒に体操をする機会が持てた。</p> <p>家族交流会において看取り介護をテーマとして、自宅でご家族を看取った方の話や施設で行っている看取り介護の紹介を行った。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区訪問の在り方や方法を再検討し、地区のニーズに応えられるよう、取り組みます。 ・ ご家族の他、地域住民を対象に、施設での取り組みの紹介を継続します。

2 短期入所生活介護事業

1. 施設利用稼働率

(単位：%)



※稼働率について

- ・短期入所の1日定員(8人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。
1年間の延べ利用日数が3,166日であったことから

$$\frac{3,166 \text{ 日}}{2,928 \text{ 日} (8 \text{ 人} \times 366 \text{ 日})} = 1.081 \quad \text{稼働率 } 108.1\%$$

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

※稼働率が100%を超えている理由について

- ・特養部門において入院者がいた場合に、そのベッドを使用して、短期入所のキャンセル待ちの利用者を受け入れたことで、稼働率が100%を超えている状況です。

2. 要介護度別利用延べ日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
平成30年度	16	5	20	475	693	517	1,005	483	3,214日
令和1年度	34	63	49	437	590	461	1,152	380	3,166日

3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数	27	26	29	26	29	24	28	26	29	25	24	26	27人
延べ利用日数	262	272	262	286	263	243	264	241	253	258	248	314	264日

4. 平均介護度及び平均利用日数(期間平均)

	要 支 援		要 介 護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
平成30年度	1.17	2.38 日	3.32	10.38 日
令和1年度	1.14	5.06 日	3.35	10.28 日

5. 要介護度状態の変化(令和2年3月にご利用されている方を対象としています。)

内 容	要支援	要介護
改 善	1 人	1 人
維 持	2 人	21 人
悪 化	0 人	1 人
合 計	3 人	23 人

※障害者利用は除く

6. 年間行事報告

園内行事については特養部門と合同で開催した。

7. 事業報告(総括)

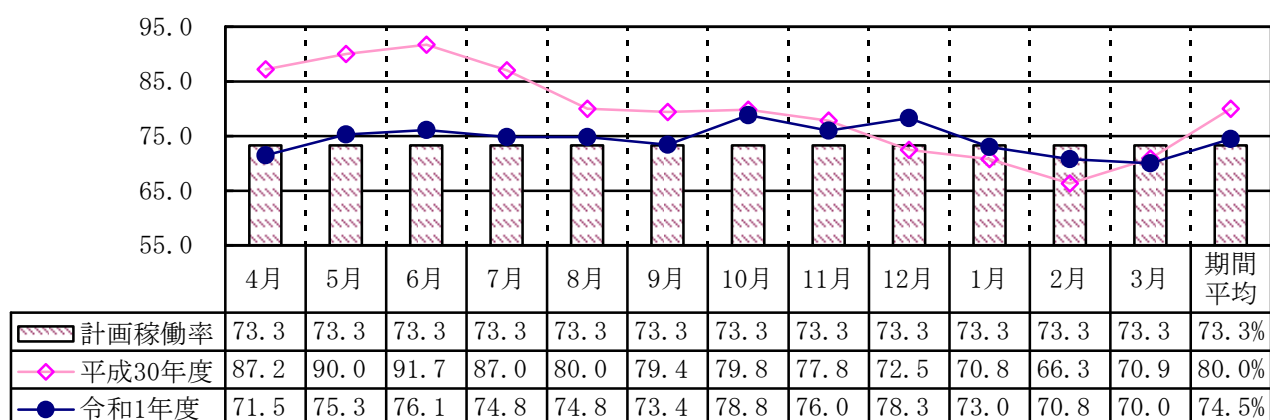
ご利用者やご家族が安心して在宅生活が続けられるよう支援します。	
取組事項	<p>①在宅での生活を継続していただくため、ご利用者の水分摂取量、食事摂取量、運動量を利用中に把握し、データに基づいて健康状態の安定や身体機能の向上に向けたケアを実践します。また、施設で行っているケアが自宅でも継続できるよう、ご家族や担当介護支援専門員に対して情報を提供します。</p> <p>②在宅生活の意欲が向上するよう、施設以外の場所へ外出ができるよう支援します。</p>
実績	<p>①ご利用者個々に合ったケアを提供することができた。また、他の福祉サービスと情報共有や意見交換を行い、身体機能に低下が見られる方、食事摂取量が減っている方など医療的ケアを必要とする方に対し、統一したケアを行うことができた。</p> <p>②昼食を兼ねた外出を行った。津川地区の花火大会では、スイカを食べながら花火見物を行った。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の身体機能を把握するとともに、当法人の事業所間で連携したケアを行い、利用者の健康状態の安定と、身体機能の向上が図れるよう取り組みを行います。

地域住民やご利用者家族へ情報発信を行い、お互いが協力し合える関係を作ります。	
取組事項	<p>①デイサービスやショートステイ利用されているご家族や地域の方を対象とした介護に関する悩みなどを解決できるよう情報提供を行います。</p> <p>②施設での取り組みを紹介するミニ通信の発行を継続します。</p>
実績	<p>①6月、9月、12月にデイサービスと合同で、介護技術に関する勉強会を開催し、ご家族と意見交換を行った。</p> <p>②定期的にご利用者家族に向けて、施設での様子や行事の写真を掲載した「ミニ通信」を発行した。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族との交流会を継続していきます。この会を通じて、ご家族が抱えている介護に関する悩みや不安を共有し、互いに協力して解決できるよう、関係作りに取り組んでいきます。 ・施設での取り組みを紹介する「ミニ通信」の発行を継続します。また、サービスに関する情報を掲載したパンフレットを作成し、広報活動に取り組みます。

3 通所介護事業

1. 施設利用稼働率

(単位：%)



※稼働率について

通所介護事業の1日定員(25人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が5,771日であったことから

$$\frac{5,771 \text{ 日}}{(\text{延べ利用日数})} \div \frac{7,750 \text{ 日}}{(25 \text{ 人} \times 310 \text{ 日})} = 0.7446 \quad \text{稼働率 } 74.5\%$$

(定員) (実稼働日数)

2. 要介護度別利用延べ日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
平成30年度	403	440	506	1,111	694	1,317	1,071	622	6,164日
令和1年度	406	500	463	1,034	878	1,249	741	500	5,771日

3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数	62	65	64	63	64	63	64	65	68	65	63	67	64人
延べ利用日数	465	508	476	505	505	459	532	494	509	438	425	455	481日

4. 平均介護度及び平均利用日数(期間平均)

	要支援		要介護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
平成30年度	1.41	6.06日	2.90	7.97日
令和1年度	1.41	6.68日	3.44	7.97日

5. 要介護度状態の変化(令和2年3月にご利用されている方を対象としています)

内 容	要支援	要介護
改 善	5 人	7 人
維 持	8 人	29 人
悪 化	0 人	6 人
合 計	13 人	42 人

※基準該当4名を除く

6. 年間行事報告

月 別	実 施 行 事	内 容
4月16日 ～22日	観 桜 会	・デイサービスフロアにて抹茶をいただきながらお花見を行った。
6月17日 ～29日	バスハイキング	・町内のスーパーでの買い物やハーバルパークに出かけて新緑を楽しまれた。
6月26日	家族意見交換会	・狐の嫁入り屋敷にて「夏場の健康管理について」の勉強会を開催し、その中でご家族同士が意見交換を行った。
7月2日 ～6日	七 夕 会	・ひまわり保育園の園児の演奏を楽しまれた。また、短冊に願い事を書いていただいた。
8月15日 ～20日	軽食づくり	・季節感を感じていただけるよう、かき氷を作り食べられた。
9月24日 ～28日	敬 老 会	・1週間式典とプレゼント贈呈、曜日毎にボランティアや職員による余興を楽しんでいただいた。
9月27日	家族意見交換会	・特養の取り組みについての発表とご家族同士の意見交換を行った。
11月25日 ～30日	作 品 展	・町内の他の施設と一緒に展示された作品を見て楽しまれた。
12月16日 ～21日	忘 年 会	・日替わりでボランティアや職員の余興を披露した。最終日にはご利用者と一緒に餅つきを行った。
1月13日	団子さし	・皆さんで団子を丸めたり、装飾品を飾って楽しまれた。
2月1日 ～7日	節 分	・職員が鬼に扮し、ご利用者が鬼に豆まきをして楽しんでいただいた。
3月16日 ～21日	軽食づくり	・皆さんでアイスに飾りつけをして食べていただいた。

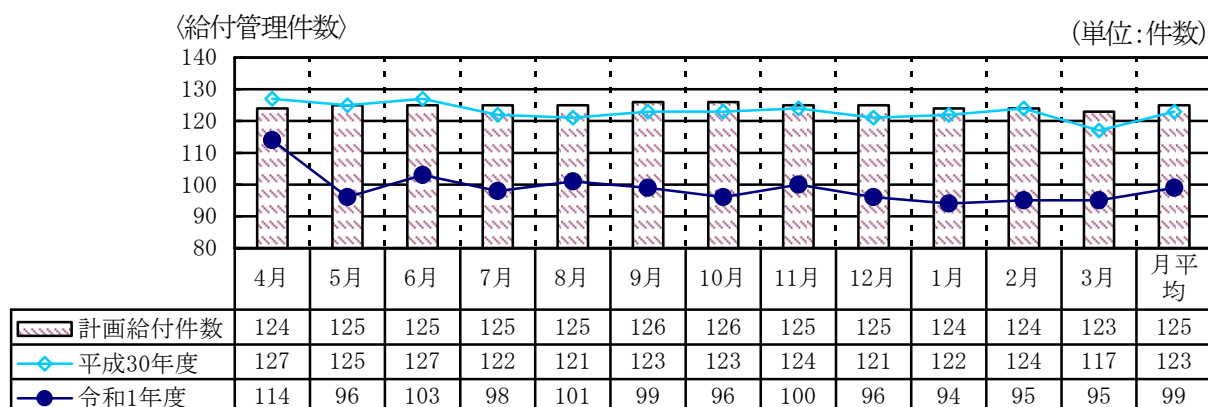
7. 事業報告(総括)

ご利用者やご家族が心身共に安心して在宅生活が続けられるよう支援します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 自宅でのご利用者の生活環境や生活状況を把握し、自宅で安全に過ごしてもらえるよう、脳の覚醒水準の維持、改善と身体機能の維持、向上のための活動を実践します。 ② 認知症のご利用者が精神面での安定を図り安心して過ごせるよう、その方に合った認知症ケアを実践します。 ③ ご利用者の健康状態の観察と状態の変化を把握し、健康状態の安定を図るとともに異常の早期発見に努めます。また、異常があった際にはご家族及び医療機関 介護支援専門員に情報提供を行い、適切な対応ができるよう支援します。 ④ ご利用者及びご家族の各種相談に対して、各職種が専門的な相談支援を行い、在宅生活の状況に合わせた利用方法について提案をします。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 自宅での水分摂取状況や活動量、または、排便状況などを確認しながら、必要に応じて個別にアドバイスをを行った。 ② 個別の症状や家庭での状況などを確認し、個々のニーズに合わせるよう、ケアの内容を確認しながら行った。 ③ 健康状態の変化を確認した場合、連携ノートや関係機関への連絡等で情報の共有を図った。また、在宅で看取りをしているご家庭では、利用者の状態変化時の対応方法についてその都度確認しながら支援を行った。 ④ 状態の低下予防やご家族の負担軽減を考慮し、ご家族や介護支援専門員にサービスの利用方法を提案した。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅生活や在宅介護が安全に継続できるよう、リスク管理や予防的視点からの情報提供を行います。 ・在宅での看取りについて、ご家族が不安なくケアできるよう関係機関との連携を強化します。

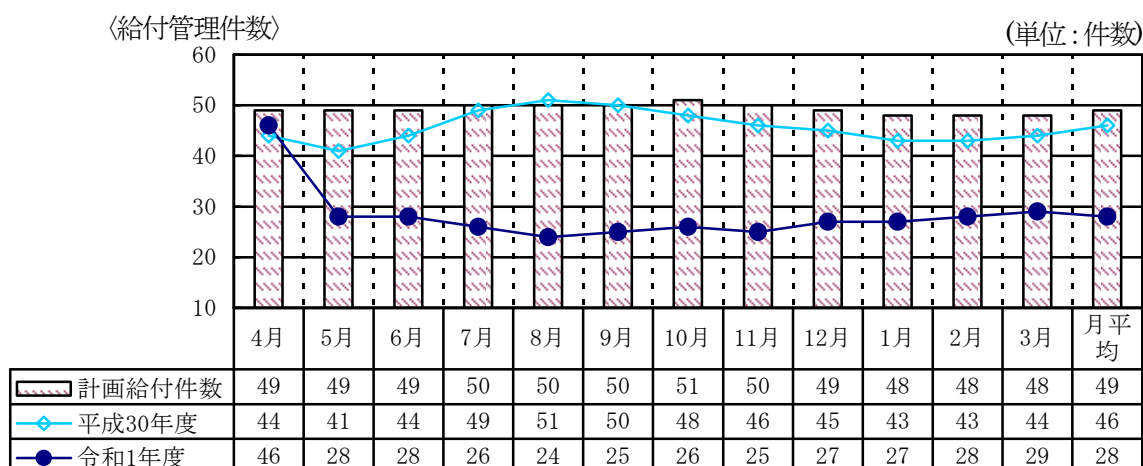
地域住民やご家族との交流を図り、在宅ケアの中心として信頼を深めます。	
取組事項	<p>① デイサービスやショートステイを利用しているご家族や地域の方々を対象とした交流会を開催し介護に関する情報提供を行います。</p> <p>② 地域住民やご家族を対象とした交流会を開催します。また、フェイスブックを活用し介護に関する情報やデイサービスの活動内容を紹介することで在宅介護のお手伝いをします。</p>
実績	<p>① 6月、9月にショートステイ・特養と合同で健康管理の方法や看取り介護についての勉強会を開催した。その中でご家族との意見交換会を行った。</p> <p>② 意見交換会の中で、デイサービスの行っている、水分摂取の方法や食事形態などの紹介を行った。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護に関する情報提供が行えるよう、介護に関する知識や技術の向上を図ります。 ・ ご利用者個々の状態に合わせて、複数の選択肢の中から適切なケアを選択し提供します。 ・ リスク管理を念頭に置いたケアの方法を、ご家族に対して提案していきます。

4 居宅介護支援事業

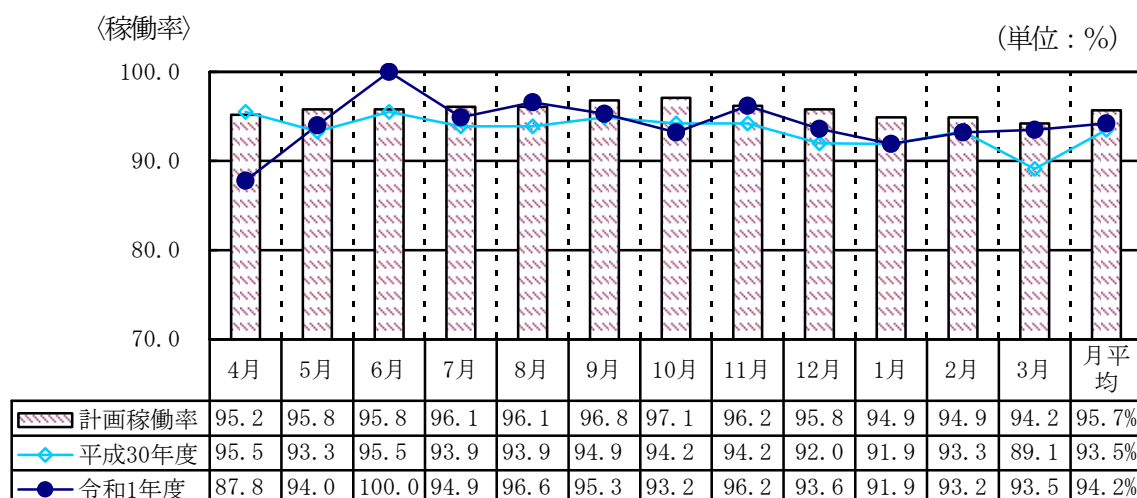
1. 要介護者給付管理状況



2. 介護予防給付管理状況



3. 介護保険担当者状況



※稼働率について

介護給付管理を行える上限(1人あたり39人)に対して、給付管理をした人数の割合を表します。
ただし、介護予防については、1件あたり0.5人とします。

平成31年4月

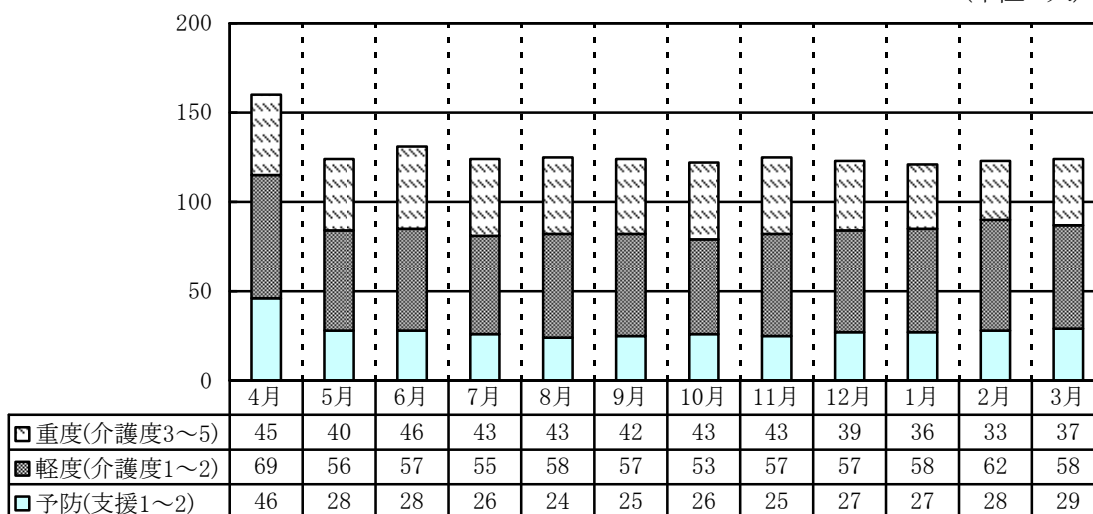
$$\frac{(114 \text{ 件} + (46 \text{ 件} \div 2)) \div 156 \text{ 件}}{(114 \text{ 件} + (46 \text{ 件} \div 2)) \div (4 \text{ 名} \times 39 \text{ 人})} = 87.8\% = \text{稼働率}$$

令和元年5月から令和2年3月まで

$$\frac{(1073 \text{ 件} + (293 \text{ 件} \div 2)) \div 1287 \text{ 件}}{(1073 \text{ 件} + (293 \text{ 件} \div 2)) \div (3 \text{ 名} \times 39 \text{ 人})} = 94.8\% = \text{稼働率}$$

4. 区分別利用者状況

(単位：人)



□ 予防(支援1～2) ■ 軽度(介護度1～2) □ 重度(介護度3～5)

5. 事業報告(総括)

ご利用者とご家族の様々な思いに対応できるよう、支援技術の向上を図ります。	
取組事項	<p>①事業所内及び他の事業所との事例検討会や、地域ケア会議などを活用し支援困難な方に対しても適切な支援ができるよう努めます。</p> <p>③ 死亡や施設入所などで契約終了した方の支援内容を振り返り、上手くいったこと、いかなかったことなどを事業所内で話し合い、次の支援に役立てます。</p>
実績	<p>① 事業所内及び他事業所との事例検討会を実施した。又地域ケア会議や包括主催の研修に参加し、多職種の意見を聞き、アセスメントの視点について新たに学ぶことができた。</p> <p>②居宅会議で、契約終了者の振り返りを行った。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 支援技術の向上を図るため、事例検討会や研修に参加します。

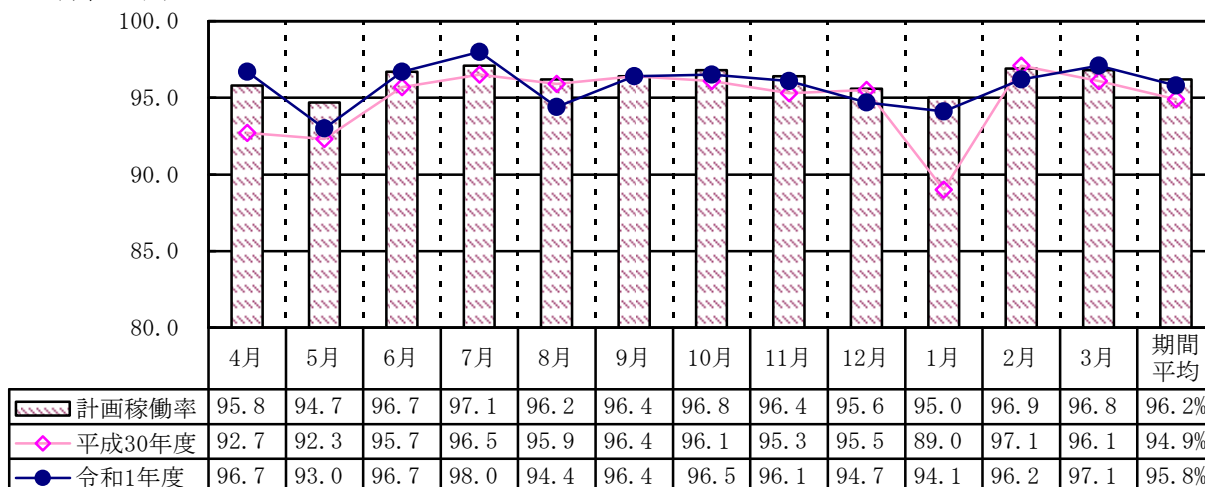
在宅での看取りについて理解を深め、ご本人やご家族に寄り添った支援ができるよう努めます。	
取組事項	<p>① 看取りに関する研修会に参加し、看取り期における全身状態の変化や自宅で看取る為の準備、医療機関との連携について学びます。</p>
実績	<p>① 地域病院の取り組みや看取り期の対応を知ることができた。自宅で看取りたいというご家族へ助言をし、医療機関につながることもできた。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 最後を自宅でと考えているご本人やご家族の支えになれるよう、地域医療との関わりを積極的に行っていきます。

事業所評価を実施し業務改善を行うことで、より良い事業所をめざします。	
取組事項	<p>①事業所内評価及びご利用者の満足度アンケートを実施します。</p> <p>②アンケート結果の分析を行い、改善方法に向け検討します。</p>
実績	<p>①利用者満足度アンケートを7月から8月にかけて実施した。</p> <p>②結果の集計と分析を行い、事業所内で改善方法について検討した。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ご利用者やご家族の立場に立って、希望に沿うプランを立案します。 ご利用者やご家族からより信頼される事業所になれるよう、自己研鑽に努めます。

5 障害者共同生活援助事業(グループホーム)

1. 施設利用稼働率

(単位：%)



※稼働率について

共同生活援助事業の1日定員(11人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が3,858日であったことから

$$\frac{3,858 \text{ 日}}{4,026 \text{ 日} \langle 11 \text{ 人} \times 366 \text{ 日} \rangle} = 0.9582 \quad \text{稼働率 } 95.8\%$$

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

2. 障害区分別入所者数(令和2年3月31日現在)

	障害区分						平均
	1	2	3	4	5	6	
平成30年度	0	4	3	3	0	0	2.9
令和1年度	0	4	3	3	1	0	3.1

3. 年間行事報告

月 別	実 施 行 事	内 容
7月7日	バーベキュー	・たいよう、あかり合同バーベキューを行い、近隣住民で1名参加された。
12月22日	クリスマス会	・各ホームで、クリスマスメニューの食事をし、入居者にプレゼントを配った。
1月12日	団子さし	・各ホームにて団子を作り玄関に飾った。
2月2日	豆まき	・各ホームにて昼食に恵方巻を食べ、豆まきを行った。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の要望により、外食や買い物などの外出を随時行った。 ・地域の夏祭りへ出かけ地域交流を図った。 	

4. 事業報告(総括)

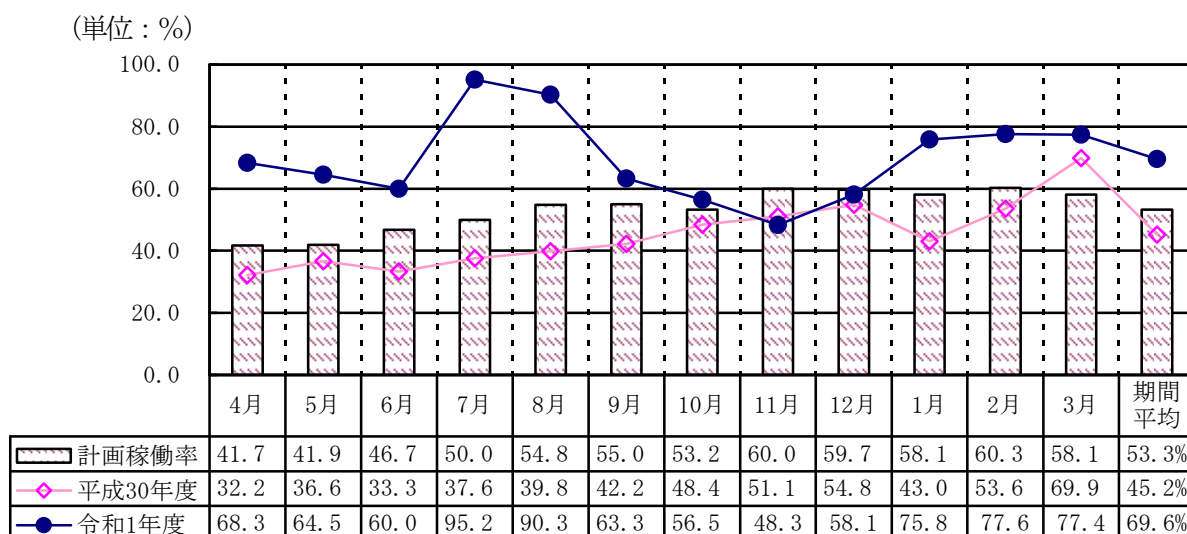
ご利用者が地域住民の一人として生活が送れるよう支援します。	
取 組 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ①地区行事や集会等に積極的に参加します。 ②相談支援専門員や、日中活動事業所と情報の共有を図り、安心した生活が送れるよう支援します。 ③ご近所の方を招くイベントを計画し交流を図ります。
実 績	<ul style="list-style-type: none"> ①地区総会、夏祭りに参加し地域の方と交流を図った。 ②相談員と定期的に情報交換を行うと共に、日中活動先とも利用中の様子等、情報の共有を図った。 ③たいよう敷地内でバーベキューを行う際に、近隣の方にも声をかけて参加していただいた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の行事等、参加できる機会を増やせるよう検討します。また、ご近隣の方々と交流ができる機会を増やします。

ご利用者との関りを多く持ち、その方の希望に添えるよう努めます。また、障害の特徴を理解した支援を行います。	
取組事項	①職員間の情報共有を密にし、個々の目標に沿った支援を行います。 ②職員の資質向上のために、グループホーム職員として必要な勉強会を行う他、外部研修に参加します。
実績	①業務日誌、職員間連絡ノートを活用し、支援員、世話人での情報共有を図った。 ②専門職毎の外部研修に参加した。また、会議等の時間を使い感染症や支援について勉強会を行った。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活の中での会話や関りを十分に持ち、個々の希望に添えるように職員間だけでなく、関係機関との連携を図ります。 ・外部研修、勉強会について今後も実施していきます。

ご家族に安心していただけるよう情報発信に努めます。	
取組事項	①ご家族を招待したイベントの開催や、グループホームでの様子や出来事をご家族へ定期的にお知らせします。
実績	①定期的にご家族へお知らせすることができず、帰省の際グループホームに来られた時や不定期での連絡を行った。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームでの様子を定期的にお知らせできるよう、方法を再度検討し実施します。

6 障害者短期入所事業(ショートステイ)

1. 施設利用稼働率



※稼働率について

短期入所の1日定員(2人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が510日であったことから

$$\frac{510 \text{ 日}}{732 \text{ 日} \langle 2 \text{ 人} \times 366 \text{ 日} \rangle} = 0.6967 \quad \text{稼働率 } 69.6\%$$

(延べ利用日数) (定員)(実稼働日数)

2. 障害区分別延べ利用日数

	児 童			成 人						計
	1	2	3	1	2	3	4	5	6	
平成30年度	0	0	0	0	6	59	52	373	3	493日
令和1年度	0	0	16	0	86	279	71	67	0	519日

3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数	4	4	5	7	8	7	6	6	6	7	7	8	6.3人
延べ利用日数	41	46	36	62	56	38	35	29	36	47	45	48	43.3日

4. 平均障害区分及び平均利用日数(期間平均)

	児 童		成 人	
	平均支援区分	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均支援区分	利用者1人あたり 月平均利用日数
平成30年度	0	0日	4.6	12.0日
令和1年度	3	1.3日	3.8	5.9日

5. 年間行事報告

行事については障害者共同生活援助部門と合同で開催した。

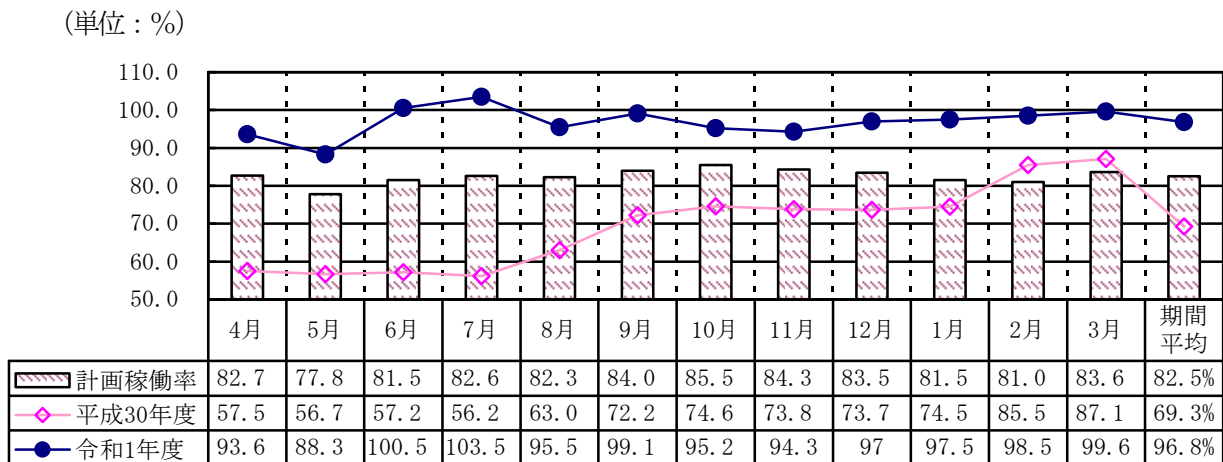
6. 事業報告(総括)

ご利用者、ご家族の希望を伺いながら、自宅で過ごす時と変わらない生活を送れるよう支援します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ①自宅での生活リズムや習慣を理解し、利用時も同じような生活リズムで過ごせるよう支援します。 ②グループホームご利用者と一緒にイベントや地区の行事に参加し、ご利用者と地域との関りが持てるよう支援します。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ①ご家族、ご本人から自宅での様子や過ごし方を確認し、事業所でも生活リズムが変わらないよう支援した。 ②グループホームのご利用者と一緒にイベントや行事に参加した。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に利用される方に対し、利用後の様子や利用時の希望等を、相談員、ご家族、ご本人から話を聞き、希望に沿う対応ができるよう検討します。

日中活動事業所や関係機関と情報の共有を図り、利用ごとに変化があっても柔軟に対応が出来るよう支援します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ①利用前に状況の確認を行い、状態に合わせた対応が行えるよう支援します。 ②緊急的に利用が必要となった方への対応もできるよう連絡、調整を行います。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ①利用前の状況確認をしっかりと行うことで、一人ひとりの状態に合わせた対応をすることができた。 ②緊急での利用希望があり、関係機関と調整を行いスムーズに対応をすることができた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・利用前には、確実に状態確認を行います。また、ご利用者個々に合わせた柔軟な対応が出来るよう、職員のスキルアップに努めます。

7 障害者生活介護事業

1. 施設利用稼働率



※稼働率について

生活介護事業の1日定員(10人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が2,488日であったことから

$$\frac{2,488 \text{ 日}}{\text{(延べ利用日数)}} \div \frac{2,570 \text{ 日}}{\text{(定員)} \times \text{(実稼働日数)}} = 0.9680 \text{ 稼働率 } 96.8 \%$$

2. 障害区分別延べ利用日数

	障害支援区分						計
	1	2	3	4	5	6	
平成30年度	0	259	325	870	254	1	1709日
令和1年度	0	306	801	1,052	319	10	2488日

3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数	13	13	13	15	15	14	14	15	14	15	15	15	14.3人
延べ利用日数	206	203	201	238	210	208	219	198	194	195	197	219	207.3日

4. 平均障害区分及び平均利用日数(期間平均)

	成人	
	平均支援区分	利用者1人あたり 月平均利用日数
平成30年度	3.65	15.83日
令和1年度	3.68	12.95日

5.年間行事報告

月 別	実 施 行 事	内 容
4月 23日	観桜会	・レイクサイド角神に出掛け花見を行った。
4月 29日	喜多方ラーメン	・喜多方ラーメンまつり亭にて昼食を楽しんだ。
5月 3日	第30回つがわ狐の嫁入り行列	・東蒲の里で嫁入り行列を見たあと、麒麟山公園でイベント等を楽しんだ。
5月 6日	マリンピア日本海	・マリンピア日本海にてイルカショーを楽しんだ。
6月 27日	買い物外出	・五泉のマクドナルドにて昼食を食べ、ダイソーやしまむらにて買い物を行った。
7月 15日	ボウリング	・ファミリーボウルにてボウリングを行った。
8月 8日	バーベキュー	・とこなみ駐車場にてバーベキューを行った。
9月 20日	サントピア牧場	・当日台風で休園していたため、目的地を「みるぱす」に変更し実施した。
12月 25日	クリスマス会	・お手玉投げ等のレクリエーションの後、みんなでケーキを食べて楽しんでもらった。食後にサンタクロースが登場しプレゼントを配布した。
1月 10日	団子さし	・平堀サロンの方から団子さしを教えていただいた。一緒に団子づくりや飾り付けを行い、その後、サロンの皆さんと茶話会を楽しんだ。
2月 7日	節 分	・職員が鬼に変装し、豆まきを行った。
3月 4日	ひな祭り会	・彩海のちらし寿司弁当を食べ、おやつの中にはひな祭りケーキを食べた。

6. 事業報告(総括)

ご利用者のニーズ、障害の特性に基づいた小グループ化を図り、より充実した活動内容を設定します。	
取組事項	<p>①一人ひとりの能力に合った活動が出来るよう、新しい活動内容の充実に努めます。</p> <p>②ご利用者の自主性を伸ばすため、自主的な活動に対しては時間をかけて見守りを行い、必要に応じて適切な支援を行います。</p>
実績	<p>① 7月から長野ゴムから委託を受けた「バリ取り作業」を開始した。これにより、昨年よりもご利用者に工賃を多く支払うことができた。</p> <p>②作業工程を細かく分けることで、ご利用者が「やりたい」と思う作業を自分で選択することができた。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後もご利用者がやりたいと思える活動内容を増やしていきます。

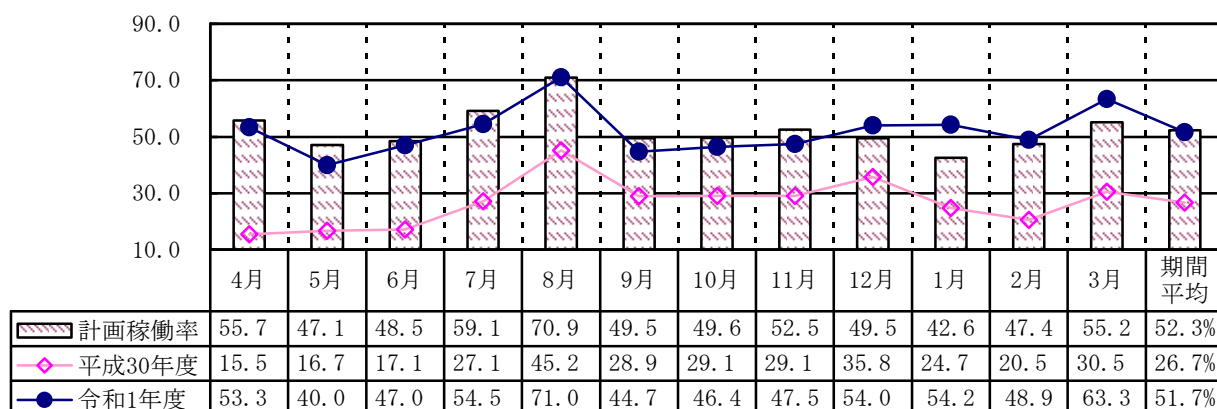
地域とのつながり、人との関わりを重視した支援を行います。	
取組事項	<p>①地域の方と関わりを持てるよう、積極的に園外活動や地域活動を行います。</p> <p>②個別支援を行いながらも、人との関わりを意識できる活動内容を行います。(注文したものを配達してもらうのではなく取りに行くなど)</p>
実績	<p>①平堀会館付近の掃除を行うことで、近所の方から声を掛けてもらえるようになった。多くの空き缶をとこなみに届けてくれるようになった。</p> <p>②他者と関わるのが苦手なご利用者に対して、「人のため」の活動を通し、自分だけではなく「他の人」を意識できるよう支援した。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所外での活動を積極的に行うことで、地域や人とのつながりを感じてもらえるよう支援します。

ご利用者により良い支援を行うために必要な援助技術・法制度等の知識を学ぶことで、職員の資質向上を図ります。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ①障害事業に求められている研修や、日常の支援に必要な援助技術の向上のための外部研修に参加します。 ②日常的な問題や課題を共有し検討を行い、その中で職員の専門性を高めます。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ①外部研修に参加し、現在、障害事業では農業との連携が求められていることを学んだ。 ②自閉症の感覚を体験し、日常での言葉掛けや支援方法を検討した。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、外部研修への参加を増やし資質向上に努めます。

8 放課後等デイサービス事業

1. 施設利用稼働率

(単位：%)



※稼働率について

放課後等デイサービスの1日定員(10人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が1,262日であったことから

$$\frac{1,262 \text{ 日}}{2,440 \text{ 日} \langle 10 \text{ 人} \times 244 \text{ 日} \rangle} = 0.5172 \quad \text{稼働率 } 51.7\%$$

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

2. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数	9	8	6	10	12	6	8	9	12	12	7	12	9.3人
延べ利用日数	112	84	94	109	149	85	102	95	108	103	88	133	105.2日

3. 平均障害区分及び平均利用日数(期間平均)

	児 童
	利用者1人あたり 月平均利用日数
平成30年度	12.4日
令和1年度	8.75日

4. 年間行事報告

月 別	実 施 行 事	内 容
5月27日	施設外学習 (マクドナルドでの飲食体験)	・一人250円で、マクドナルドでおやつを購入し店内で食べた。(1人1人が店員さんに注文をした。)
12月25日	クリスマス会	・昼食をクリスマス会とし、みんなでオムライスを作った。午後から、ご家族に宛てたクリスマスカードを作成し、おやつの時間にサンタクロースからプレゼントが届いた。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・季節に合わせ、子供たちが楽しめる活動を行った。(七夕、スイカ割り、そうめん流し、プール、ハロウィン、団子差し) ・毎月1回おやつ作りを行った。 ・長期休みは昼食づくりを毎日行った。

5. 事業報告(総括)

<p>子供やその保護者が持っている課題を把握し、一人ひとりの状態に合わせた適切な支援を行います。</p>	
<p>取 組 事 項</p>	<p>①個々のニーズや課題を把握できるよう、定期的に保護者と話をする機会を設けます。</p> <p>②子供たちの生活状況、生活環境の変化などに対して速やかに対応できるよう、学校などの関係機関との情報共有を図ります。</p> <p>③子供たち本人が自主的に起こした行動があれば、できるだけ時間をかけて見守りを行うことで、子どもたちの自主性が高まるように支援します。</p> <p>④支援に必要な援助技術向上のための研修に参加します。</p>
<p>実 績</p>	<p>①送迎時や連絡帳での情報共有を行った。</p> <p>②保護者からの意見や情報、学校での様子等変化があれば、関係機関に情報を提供し、相談をしながら対応した。</p> <p>③遊びの内容を、子どもたちが話し合いで決める。遊びの前にルールの確認をする等を行い、子供たちが自分で決めて自分から行動できるよう支援した。</p> <p>調理ではグループを2つに分けることで、子ども一人ひとりが調理に参加できるようにした。</p> <p>④援助技術向上に必要な研修に参加した。</p>
<p>課題と今後の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者のニーズをくみ取りながらも、子ども自身のニーズと調整していけるよう、保護者との意見交換や学校、関係機関への相談を行います。 ・ 放課後等デイサービス職員としての資質向上、技術向上に向けた研修に参加するだけでなく、事業所内でのミニ研修を行います。

子供たちの成長の段階に応じた切れ目のない支援と働きかけを行います。	
取組事項	<p>①地域の方や学校などの関係機関に広く認知していただくとともに、子供たちだけでなく保護者も含めた支援を行う事業であることを伝えていきます。</p> <p>②子供たちの変化や事業所での取り組みを多くの方に知っていただけるよう、広報紙を発行します。</p> <p>③阿賀町や学校関係者などと協力し支援します。</p>
実績	<p>①東蒲原郡小学校教育研究会特別支援部会へ参加し、放課後等デイサービスの制度概要、児童クラブとの違い、教育と福祉の連携について話をする事ができた。 事業所周辺の散歩や公園遊びを通し、地域の人と挨拶をかわし「とこなみ」を知ってもらった。</p> <p>②合同フォーラムで「とこなみ」の取り組みをパネルで紹介することで、活動を紹介することができた。</p> <p>③自立支援協議会療育部会を通し、阿賀町や学校関係者と話し合う機会を持ち協力支援に向けた取り組みを行った。 放課後児童クラブの見学、児童クラブ指導員会議に参加し、阿賀町の児童クラブの現状を把握することができた。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業に関しての紹介が不十分なため、引き続き放課後等デイサービスを知ってもらえるよう、広報誌などを定期的に発行し広報活動に努めます。 ・ 自立支援協議会療育部会を通し、阿賀町や学校関係者との協力支援の在り方を提案します。 ・ とこなみでの子供たちの様子、取り組み、保護者からの意見等を定期的にお便りとして発行します。

9 東蒲の里研修報告

1. 外部研修種別の内訳

項目	内容	主な研修
技術向上 人材育成	職務を遂行するための技術及び質の向上を目的とした研修 現場実践に必要な基礎知識等の習得及び対人援助職に必要な伝える力の理解を深めることを目的とした研修	阿賀町地域づくりネットワーク準備会
		衛生管理者受験対策セミナー
		安全運転管理者講習
		成年後見活用講座
		認知症ケア・対応研修
		阿賀町在宅医療・介護連携研修会
		新潟県農福連携セミナー
		新潟県サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者基礎研修
		新潟高齢者の栄養と摂食を支える会研究会
		第24回新潟県老人福祉施設研究大会
		新潟県強度行動障害支援者養成研修(基礎機演習)
		児童虐待防止研修会
		「初級リスクマネジャー養成講座」
		新潟圏域高次機能障害支援従事者研修会
		社会福祉施設安全管理者研修会
総務委員会企画研修会		
子供発達研修会		
サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者研修		

2. 内部研修参加状況

開催日	研修名	対象職員 (人)	参加者数 (人)	出席率 (%)
令和元年5月8日 令和元年5月22日	疾患とご利用者の緊急対応について 感染症、食中毒の予防について 危険予知トレーニング	64	46	71.9
令和元年6月12日 令和元年6月19日	口腔ケアについて 栄養ケアについて 身体拘束について 危険予知トレーニング	62	43	69.4
令和元年7月10日 令和元年7月17日 令和元年7月24日 令和元年7月31日	救急法	62	59	95.2
令和元年8月21日 平成30年8月22日	セルフメンタルヘルスについて 苦情について プライバシー保護について 危険予知トレーニング	59	43	72.9
令和元年9月11日 令和元年9月18日 令和元年9月25日	法令遵守について 個人情報保護について 高齢者、障害者虐待防止について	64	57	89.1
令和元年10月9日 令和元年10月23日	感染症と吐物処理について 緊急時の事故対応、事故分析について 危険予知トレーニング	58	44	75.9
令和元年11月13日 令和元年11月27日	復命会 看取り介護について 身体拘束について 危険予知トレーニング	62	45	72.6
令和元年12月11日 令和元年12月25日	事故事例の検討、事故の検証について 医療的ケアについて 危険予知トレーニング	61	30	49.2

3. 研修報告(総括)

① 外部研修

- ・栄養と摂食を支える会研究会、安全管理者研修会、などの研修に参加し、職員の資格取得、技術の習得に努めた。
- ・障害者福祉事業においても、知識の習得や事例検討などの実践的な研修に参加した。

② 内部研修

- ・出席率が、平成 30 年度に比べて減少した。令和 2 年度において、出席率が減少した原因分析と研修方法の見直しを行います。

10 東蒲の里 ボランティア活動状況

開催月	活動内容	参加者数
4月	・2階談話コーナーにて清拭たたみ	9人
5月	・2階談話コーナーにて清拭たたみ	10人
6月	・2階談話コーナーにて清拭たたみ	7人
7月	・2階談話コーナーにて清拭たたみ ・利用者とのコミュニケーション ・地域住民ボランティアによる納涼祭、 屋台お手伝い ・津川民謡保存会による踊り、和太鼓披露	71人
8月	・施設内装飾品の作成	3人
9月	・2階談話コーナーにて清拭たたみ ・施設内装飾品の作成 ・かもしか会による利用者の付き添い介助 ・阿賀彩謡会による踊りの披露 ・デイサービス敬老会余興 フラ・ハウオリ やまびこ歌謡クラブ 歌謡フレンズ	32人
10月	・2階談話コーナーにて清拭たたみ ・カラオケ交流会	15人
11月	・2階談話コーナーにて清拭たたみ	7人
12月	・2階談話コーナーにて清拭たたみ ・デイサービス忘年会余興 さざなみ会 コーラス木声会	14人
1月	・1階ロビーにて清拭たたみ	4人
2月	・1階ロビーにて清拭たたみ	9人
合計		181人

11 東蒲の里 災害対策

1. 避難訓練

開催月日	訓練内容	参加者数
6月13日	〈東蒲の里・とこなみ・たいよう〉 緊急伝達訓練 夜間に緊急連絡網を使用し、職員への伝達訓練を行った。	50名 (職員)
7月29日	〈とこなみ〉 日中想定避難訓練 初期消火訓練・通報訓練を実施。消防本部の講評後消火訓練を行った。	19名 (職員)
7月31日	〈東蒲の里〉 夜間想定避難訓練 初期消火訓練・通報訓練を実施。消防本部の講評後消火訓練を行った。	12名 (職員)
11月11日	〈東蒲の里〉 県立津川病院との合同避難訓練(日中想定)	15名 (職員)
11月11日	〈東蒲の里〉 地震発生時対応訓練 震度5を想定し利用者の安否確認や建物被害の確認方法についての訓練を行った。	8名 (職員)

2. 消防設備点検

開催月日	訓練内容
6月17日	〈東蒲の里〉 契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。
6月18日	〈とこなみ・たいよう〉 契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器などの点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。
7月19日	〈東蒲の里〉 阿賀町消防本部による立ち入り検査 施設内部の立ち入り検査を受けた。 立ち入り検査の結果、誘導灯(渡り廊下)のバッテリー不良の指摘を受け、誘導灯の改修を行った。
7月29日	〈とこなみ・たいよう〉 阿賀町消防本部による立ち入り検査 施設内部の立ち入り検査を受けた。 立ち入り検査の結果、「とこなみ」においては防火管理者の選任が必要との指摘を受け、10月の講習後に選任することとなった。
12月9日	〈東蒲の里〉 契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。

12 東蒲の里 苦情受付・対応報告

苦 情

<特養>

1. 利用者家族より

ご家族より電話にて、別の利用者にケアプランを誤送付したことを謝罪すると、「どのようなやり方で郵送していたのですか。」と聞かれるとともに、「複数の職員で確認してから送付して欲しい。」と話された。

- ・ご家族に対して謝罪を行った。
- ・ケアプランを封筒に入れる際に、チェック表を作成し複数の職員で宛先と送付物の確認を行い、チェック表に確認した職員が押印することとした。

<要因:サービスの質>

<特養>

2. 利用者家族より

ご家族より電話にて、「先月の利用料について、外泊していたのですが、その分は引かれないのですか。」と話された。

- ・ご家族に対して謝罪を行った。
- ・外泊する時に記入する用紙を、利用料の計算時に見直すことができるよう変更した。

<要因:サービスの質>

<通所>

1. 介護支援専門員より

介護支援専門員より「床ずれの処置が人によって違う。あと、迎えに来た職員に浣腸を渡したのに、送って来た職員は浣腸がなかったと言った。申し送りができていないのではないかと、家族が話していた。」と話された。

- ・ご家族に対して謝罪を行った。
- ・床ずれの処置は、医療機関が連絡ノートに書いた内容を確認した。
- ・浣腸については、迎えに行った際に物品の確認を行い、浣腸の実施の有無を連絡ノートに記入することとした。

<要因:サービスの質>

<居宅>

1. 医療機関より

医療機関より阿賀町を経由し電子メールにて、「主治医意見書を必要としているご利用者が受診日に家族が薬を貰い来たことがあった。本人が受診しないため、主治医意見書を作成できず、町への提出が遅れる。」との内容であった。

- ・ご家族に対して謝罪を行った。
- ・要介護認定更新申請を提出した際に、ご家族にご利用者の受診が必要なことと、医療機関に主治医意見書の作成が必要なことを伝えることとした。

<要因:説明・情報不足、サービスの質>

苦情の発生件数

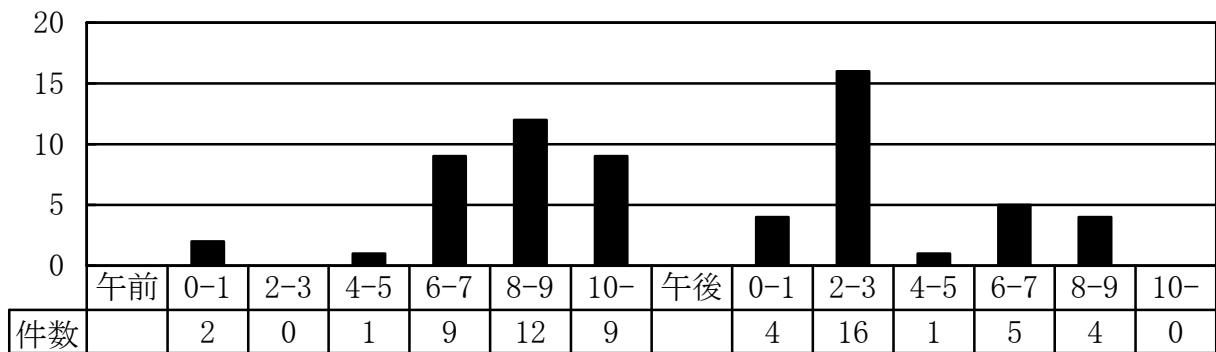
事業	件数
特養	2件
短期入所	0件
通所介護	1件
居宅	1件
合計	4件

苦情の発生原因

内容	件数
説明・情報不足	1件
職員の態度	0件
サービスの質	3件
サービスの量	0件
権利侵害	0件
その他	0件
合計	4件

13 東蒲の里 事故等発生状況報告

1. 時間帯別発生件数



〈発生件数合計 63 件〉

2. 場所別発生件数

発生場所	件数
居室	31 件
食堂・ダイニング	17 件
トイレ	2 件
廊下・玄関	5 件
浴室	4 件
施設外	1 件
その他	3 件
合計	63 件

3. 内容別発生件数

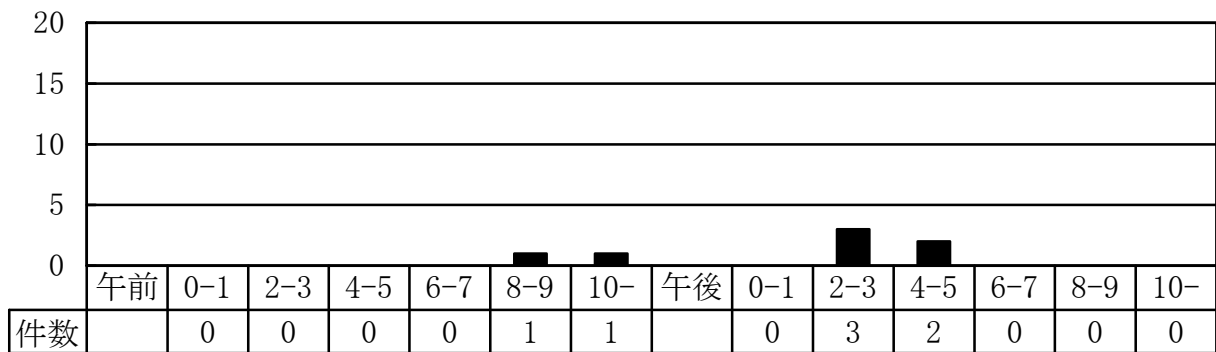
事故内容	件数
転倒・転落	28 件
裂傷・火傷	2 件
打撲・皮下出血	14 件
チューブ抜去	5 件
私物紛失	0 件
無断外出	1 件
異食・誤飲	5 件
誤薬	4 件
車輛事故	0 件
その他	4 件
合計	63 件

4. 事故報告

- ・平成30年度と比較して、約4割、減少した。(平成30年度100件)。毎月の施設内研修において、継続的に取り組んで来た「危険予知トレーニング」の内容を見直し、実際に施設で使用している検討様式を使う研修に変更した。そのため、より具体的かつ実践できる改善策を検討できるようになり、同じ利用者が事故を繰り返すことを防ぐことができたと思われる。

14 となみ 事故等発生状況報告

2. 時間帯別発生件数



〈発生件数合計7件〉

2. 場所別発生件数

発生場所	件数
居室	0件
食堂・ダイルーム	5件
トイレ	0件
廊下・玄関	0件
浴室	0件
施設外	2件
その他	0件
合計	7件

3. 内容別発生件数

事故内容	件数
転倒・転落	0件
裂傷・火傷	0件
打撲・皮下出血	0件
チューブ抜去	0件
私物紛失	0件
無断外出	0件
異食・誤飲	0件
誤薬	3件
車輛事故	1件
その他	3件
合計	7件

4. 事故報告

- ・発生時間として、14：00～15：00の時間帯に事故が多くあった。また、いつもと違う日課などの際に事故が増加している。事故が増加する原因がわかったため、今後は職員の意識を統一し、見守り強化等、再発防止に取り組む。

Ⅲ 令和元年度社会福祉法人東蒲原福社会

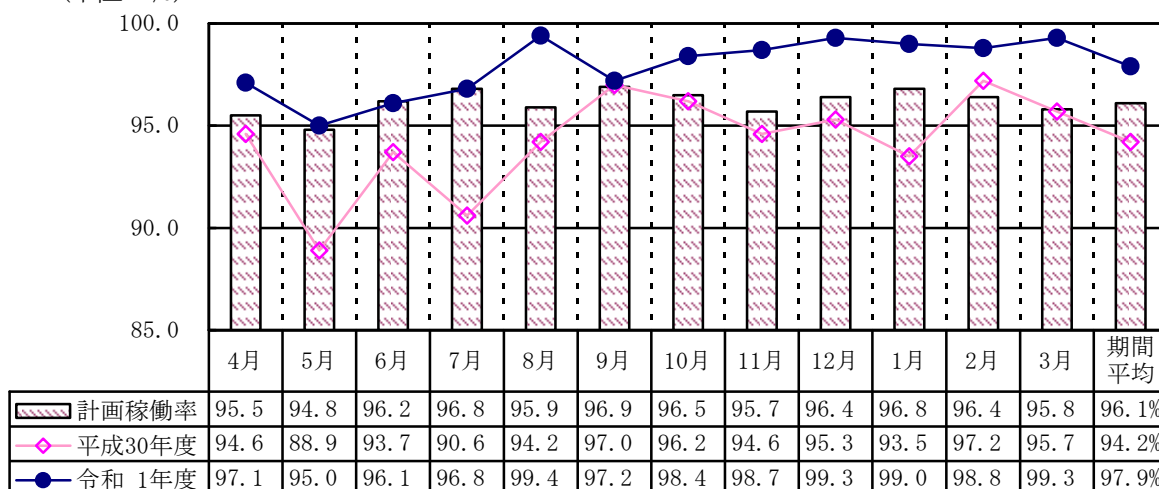
東蒲の里みかわ園 事業報告

	頁
1. 介護老人福祉施設（特 養）	4 6
2. 短期入所生活介護事業（ショートステイ）	5 0
3. 通所介護事業（デイサービス）	5 4
4. 通所型サービスA（基準緩和型）	5 8
5. 高齢者生活支援ハウス	5 9
6. 新潟水俣リハビリモデル事業	6 0
7. 外出支援サービス事業	6 2
8. 東蒲の里みかわ園研修報告	6 3
9. 東蒲の里みかわ園ボランティア活動状況	6 5
10. 東蒲の里みかわ園災害対策	6 6
11. 東蒲の里みかわ園苦情受付・対応報告	6 7
12. 東蒲の里みかわ園事故等発生状況報告	6 8

1 介護老人福祉施設

1. 施設利用稼働率

(単位：%)



※稼働率について

・介護老人福祉施設の1日定員(50人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が17,913日であったことから

$$\frac{17,913 \text{ 日}}{18,300 \text{ 日 (50人} \times 366 \text{ 日)}} = 0.9788 \quad \text{稼働率 } 97.9\%$$

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

2. 要介護度別入所者数(令和2年3月31日現在)

	要介護度					平均
	1	2	3	4	5	
平成30年度	0	1	5	23	21	4.28
令和1年度	0	1	5	23	21	4.28

3. 要介護度状態の変化(令和2年3月31日にご利用されている方を対象としています。)

内容	要介護
改善	3人
維持	41人
悪化	6人
合計	50人

4. 年間行事報告

月 別	実 施 行 事	内 容
4月17日 22日23日	花 見	・阿賀町や阿賀野市の桜を見に行き、季節を感じていただいた。
6月15日	笹団子作り	・白玉粉と豆腐を使い、抹茶を混ぜ込み笹団子風の団子、あんこ、きな粉の三種類を食べ楽しんでいただいた。
7月1日 ～7日	七 夕 会	・短冊に願いを書いて笹に飾り付を行った。
7月28日	三 涼 祭	・地域のボランティアの方々に多数来園していただき、屋台などの催し物や津川民謡愛好会による太鼓と踊りで楽しんでいただいた。
9月15日	敬 老 会	・式典及び祝宴を行い、余興ボランティアの新津松坂による民謡や踊りで楽しんでいただいた。
12月14日	忘 年 会	・会食を行い、余興ボランティアの阿賀野小町様の歌を楽しまれた。
1月1日 ～3日	お 正 月	・お汁粉や甘酒でお正月を迎えていただいた。
2月3日	節 分	・職員が鬼に扮して、掛け声とともに豆まきを行った。
その他	・6月13日 新発田市のボランティア(チーム・アイビー)演歌、歌謡曲	

5. 事業報告(総括)

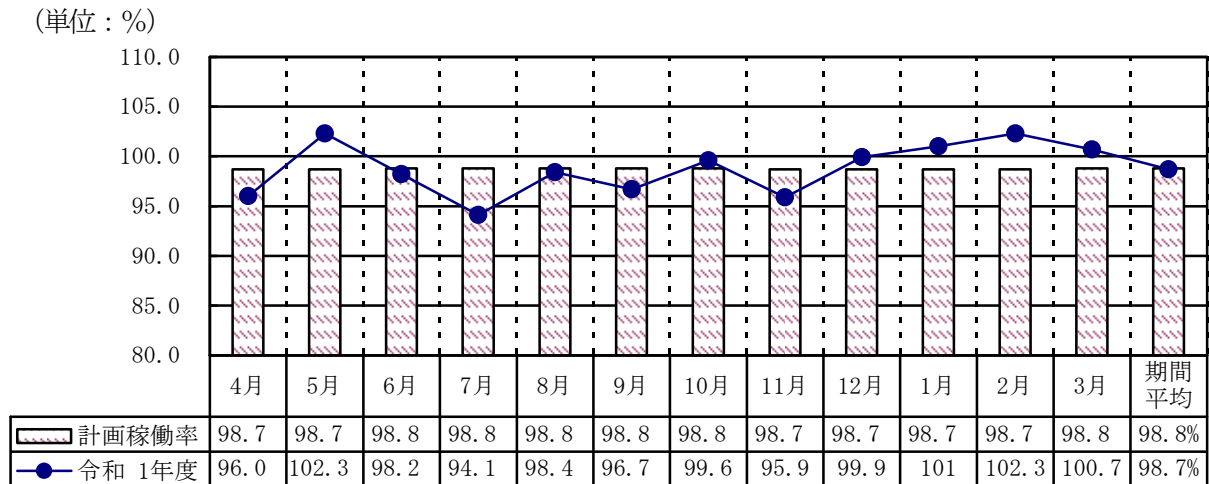
ご利用者個々の生活の質の向上に努めます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① ご利用者の状態別ケアを再確認し、新任職員でも分かりやすい個別援助プログラムを作り、根拠に基づいた自立支援を実践します。 ② 専門職の指導のもと「認知症ケア」とは何かを職員一人ひとりが理解し、ご利用者が自分らしく生活できるよう支援に取り組みます。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① ご利用者個人の食事や排泄交換、方法などを一覧でまとめ、個別ケアの実施を進めることができた。 ② 認知症ケアについての勉強会を施設全体と特養部門独自で実施し、職員の知識向上が図れた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別援助方法の一覧を継続して作成し、新任職員の育成と自立支援に取り組んでいきます。 ・ 現在、認知症があるご利用者の中で対応が困難な方の行動を再度分析して、ケアを個別的に実施していく必要がある。

ご利用者の重度化予防に努めます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 介護職員の医療的ケア向上に努め、多職種協働で水分摂取量や栄養状態の管理を行い、ご利用者の体調維持に取り組みます。 ② ご利用者それぞれの疾病を再確認して作成したガイドラインにより日々の観察を行い、異常の早期発見、早期対応を行います。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① ご利用者個々における動作、食事・水分摂取量と体重の推移を観察し、食事以外での栄養補給が必要な利用者への個別対応を実施することができた。吸引の重要性を再度周知し、看護職員より介護職員における吸引実施記録の確認を連日行い実施状況の把握と確実な吸引実施により、肺炎等を予防することができた。 ② ガイドラインの作成はできなかったが、利用者個々の観察項目を周知し、体調不良時は早期対応することで前年度より入院者を減らすことができた。

地域に開かれた施設を目指します。	
取組事項	<p>① ボランティアの受け入れや地域行事に参加して、住民の方々と情報交換を行うなど、ご利用者が社会交流の機会を持てるよう取り組みます。</p> <p>② ご家族との連携を図りながらみかわ園での取り組みを理解していただけるよう家族相談会(勉強会)を開催します。</p> <p>③ 感染症などが発生する時期に施設内の予防だけでなく、近隣地域へもチラシを配布するなど感染所の理解と予防を呼びかける取り組みを行います。</p>
実績	<p>① 1月から3月を除いて、定期的に喫茶コーナーでのボランティアの受け入れを行いご利用者の社会的交流ができた。感染症の流行により地域行事への参加はできなかった。</p> <p>② 看取りケアの勉強会を開催し、ご家族に看取りケアについて詳しく知っていただく機会を設けることができた。</p> <p>③ 感染症が流行する季節に近隣地域の区長さんに協力いただき感染症予防啓発のチラシを配布した。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1月から感染症流行の為、ボランティアの受け入れができず、また面会制限もあり社会的交流の機会が設けられなかったため、今後はパソコンや iPad を利用した面会等を検討する必要がある。 ・ 勉強会を開催しご家族から「勉強になった。またこういう機会を設けてほしい」との声があったため、今後も開催できるように検討する。

2 短期入所生活介護事業

1. 施設利用稼働率



※稼働率について

- ・短期入所の1日定員(20人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。
1年間の延べ利用日数が7,226日であったことから

$$\frac{7,226 \text{ 日}}{7,320 \text{ 日} \langle 20 \text{ 人} \times 366 \text{ 日} \rangle} = 0.9871 \quad \text{稼働率 } 98.7\%$$

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

※稼働率が100%を超えている理由について

- ・特養部門において入院者がいた場合に、そのベッドを使用して、短期入所のキャンセル待ちの利用者を受け入れたことで、稼働率が100%を超えている状況です。

2. 要介護度別利用延べ日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
平成 30 年度	70	131	35	1,524	1,130	991	1,263	2,222	7,366 日
令和 1 年度	38	110	57	1,793	1,348	851	1,536	1,493	7,226 日

3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数	46	50	51	56	46	51	52	52	55	51	45	53	51 人
延べ利用日数	576	634	589	583	610	580	617	575	619	626	593	624	602 日

4. 平均介護度及び平均利用日数(期間平均)

	要支援		要介護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
平成30年度	1.13	6.91日	3.04	12.62日
令和1年度	1.33	3.41日	2.82	9.74日

5. 要介護度状態の変化(令和2年3月にご利用されている方を対象としています。)

内容	要支援	要介護
改善	1人	2人
維持	2人	42人
悪化	0人	6人
合計	3人	50人

6. 年間行事報告

月別	実施行事	内容
4月18日 20日	花見	・阿賀町内の桜を見に行き季節を感じていただいた。
7月28日	三涼祭	・地域ボランティアの方に来園して頂き、屋台や職員による、よさこいなどの余興を行い楽しんでいただいた。
9月15日	敬老会	・式典及び祝宴を行い、余興では地域のボランティアによる民謡や踊りを楽しんでいただいた。
12月16日	忘年会	・職員によるダンスやクリスマスプレゼントを渡し楽しんでいただいた。
12月26日	そば打ち	・職員がそば打ちを行い、ご利用者にそばを振る舞った。
1月1日 ～3日	お正月	・お汁粉や甘酒、福笑いなどを楽しみ、お正月気分を感じていただいた。
その他	・新発田市のボランティア(チーム・アイビー)演歌、歌謡曲 (6月13日)	

7. 事業報告(総括)

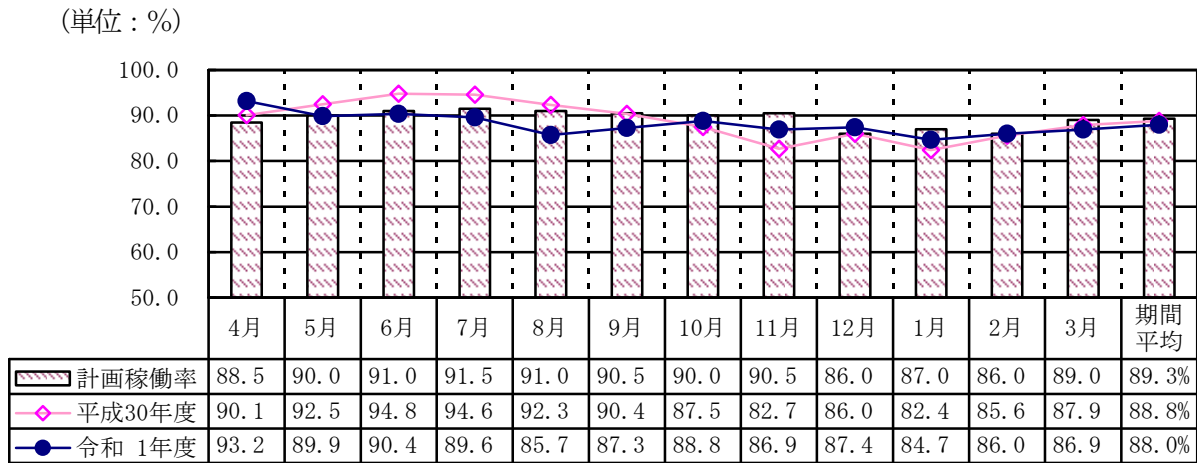
ご利用者から選ばれる施設を目指します。	
取組事項	<p>① 関係事業所への定期的な訪問と報告及び、サービス担当者会議の中でショートステイの活動を紹介し、新規利用者を選んでいただけるよう取り組みます。</p> <p>② 機能訓練や生活リハビリ、また地域行事への外出やご家族も参加できる行事、懇談会を行う等、ご利用者が元気で笑顔になれる援助活動に取り組みます。</p>
実績	<p>① 病院の担当者やケアマネと随時情報交換を行い、担当介護職員がサービス担当者会議へ参加し、援助や活動の内容を紹介してきたことで、新規利用者の獲得に繋がった。</p> <p>② 機能訓練を継続してきたことで、退院後の利用で車椅子全介助であった方が、移乗動作が出来るようになり、ご家族にも喜んでいただいた。</p> <p>行事については、お花見や、施設行事を企画・実施し、ご利用者に楽しんでいただいた。</p> <p>ご家族との交流会を企画した時期に感染症が流行したため実施できなかった。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も、選ばれる施設になれるよう関係機関との連携を密に行い、援助内容や活動を広めていく取り組みを行う。 ・ 次年度は、ご家族との懇談会の時期を早めて企画を行う。 ・ 機能訓練指導員が不在の日は、訓練が実施できなかったため、他の職員が継続して行なえるよう業務や職員体制の検討を行なっていく。

基本的ケアの徹底。	
取組事項	<p>① ご利用者自身が日常の中で、選択しながら自分らしく生活できるよう自立支援に努めます。</p> <p>② 認知症の方や、重度の方のニーズに応えられるよう、援助方法を再確認し、根拠に基づいた援助を実践します。</p> <p>③ 重度の方や看取り介護を希望される方の体調が安定し、安心して利用していただけるよう事業所内外の研修を通して、介護職員の医療的ケアの質の向上に取り組みます。</p>
実績	<p>① ご利用者が選択できるように声かけを職員で徹底し、言葉づかいや、笑顔、態度など、グループ会議で振り返り評価する機会をつくることができました。</p> <p>② ご利用者個々の援助方法を再確認し、職員同士が情報共有しながら認知症の個別援助に取り組むことができました。</p> <p>③ 担当看護師により医療的ケア・喀痰吸引について研修を行い、注意点などを再確認して援助に生かすことができました。</p>

課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none">• 今後も援助、対応について振り返る機会を作り、サービスの向上に取り組んでいく。• 様々な状態のご利用者に対応できるよう、根拠に基づく介護を継続して取り組んでいく。• 今後も医療的ケアが必要な重度ご利用者への対応力が向上できるよう研修会に参加し、知識を高めながら看護、介護が連携して取り組みます。
----------	--

3 通所介護事業

1. 施設利用稼働率



※稼働率について

・通所介護事業の1日定員(22人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が6,021日であったことから

$$6,021 \text{ 日} \div 6,842 \text{ 日} (22 \text{ 人} \times 311 \text{ 日}) = 0.8800 \quad \text{稼働率 } 88.0\%$$

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

2. 要介護度別利用延べ日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
平成30年度	35	438	524	2,168	936	750	630	568	6,049日
令和1年度	39	468	584	2,044	1,046	832	608	400	6,021日

3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数	69	66	68	70	66	67	66	67	72	67	68	68	68人
延べ利用日数	533	534	497	527	509	480	527	497	500	447	473	497	502日

4. 平均介護度及び

平均利用日数(期間平均)

	要支援		要介護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
平成30年度	1.57	4.87日	2.30	8.54日
令和1年度	1.55	5.26日	2.45	8.89日

5. 要介護度状態の変化(令和2年3月にご利用されている方を対象としています。)

内 容	要支援	要介護
改 善	3人	3人
維 持	15人	41人
悪 化	0人	6人
合 計	18人	50人

※基準該当(障害者)1名を除く

6. 年間行事報告

月 別	実 施 行 事	内 容
4月18日 ～20日	花 見	・阿賀町内へ桜を見に行き、季節を感じていただいた。
5月17日	旬の味覚を楽しむ会	・ご利用者と一緒にタケノコを下ごしらえから調理し、美味しくいただいた。
11月19日	郷土料理づくり	・のっぺい汁の調理・味付けを行い、食べていただいた。
12月24日 ～27日	そば打ち会	・ショートステイと合同で職員がそば打ちを行い、ご利用者に年越しそばを振る舞った。
3月14日	ひな祭り	・ケーキを食べ、歌を歌うなどして楽しんだ。

7. 事業報告(総括)

効果的な機能訓練を実践し、ご利用者ご家族の生活をささえられるよう努めます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 奥山理学療法士の指導の下、アセスメント、機能訓練計画・評価を実践し、効果を実感していただけるよう多職種協働で、自立支援及び機能訓練に取り組みます。 ② ご利用者のニーズを把握し、ご利用者やご家族に機能訓練の効果について、丁寧な説明を行いながら意欲的に機能訓練が行えるよう取り組みます。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 新規に生活機能向上連携加算を取得し、理学療法士の指導の下、個々に応じた機能訓練メニューを全職員で周知し、取り組んだ。 ② 評価を通して実施状況やリハビリ内容をご家族に説明し、プログラムメニューを確認していただいた。また、理学療法士の評価、指導を継続してきたことで、意欲的に取り組み、効果も現われて「利用回数を増やしたい」という声が寄せられた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご利用者一人ひとりの希望や生活環境を把握するため、アセスメントの重要性を再認識する。自宅での生活機能向上が図れるよう、今まで理学療法士から学んだことを活かし、全職員が機能訓練の知識や技術の向上に取り組んでいく。

生活能力向上や意欲向上に向けた認知症ケアに努めます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 認知症専門職員が得た知識を活かし、症状別の根拠に基づいた認知症ケアを実践します。 ② 目的や役割を持つことで、生きがいを持って参加できるような認知症ケアプログラムに取り組みます。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 認知症ケア「関わり方について」事業所で研修会を開催し、また、認知機能予防のためのプログラムを作成した。 ② ご利用者がコミュニケーションをとりやすい環境をつくり、落ち着いて過ごせるよう取り組んだ。 <p>利用者個々の状態や意欲、嗜好に配慮して、認知能力機能訓練(脳活性化トレーニング)、創作活動、機能訓練器具等を活用し、集中できる時間をつくった。その結果、落ち着かない等の行動が減少し、また徐々に注意力、集中力、記憶力の向上が見られ、認知症状が緩和する効果があった。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご利用者個々に目標を設定し、プログラム内容の選択肢を増やし、またトレーニングの効果についての PR 活動に取り組み、新規利用者を増やしていく。 ・ 職員が研修会に参加し、認知症対応の専門性を高めていく。

安心して利用していただけるよう、ご家族との連携に努めます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者、ご家族とのコミュニケーションを大切にして、精神的支援に努め、またご家族との懇談会を企画し、知識や技術の提供と活動状況の報告を行います。
実績	<p>① 利用予定日を都合でキャンセルした場合、家族の希望を取り入れ、別の日に利用ができるよう提案する取組みができた。ご家族から自宅での様子を聞き取り、ご利用者のADLの変化、健康面や不適応行動、機能訓練、介護方法に関する相談を受け、職員が助言、提案を行ったことで課題の早期発見に繋がった。またご家族の不安を軽減することができ、信頼関係を築くことができた。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅における生活動作が改善できるように、担当職員が定期的に在宅へ訪問し、ご家族と情報共有ができる体制をつくる。

4 通所型サービス A(基準緩和型)

1. 通所型サービス利用状況

	新規登録 者数	登録者数	登録終了 者数	事業日数	延べ利用者数	1日平均 利用者数
4月	0	12	0	4	46	11.5
5月	0	12	1	4	37	9.3
6月	0	11	0	4	41	10.3
7月	1	12	0	4	42	10.5
8月	0	12	0	3	27	9.0
9月	0	12	0	4	40	10.0
10月	0	12	1	4	42	10.5
11月	0	11	0	4	42	10.5
12月	0	11	0	4	43	10.7
1月	0	11	0	3	31	10.3
2月	0	11	0	4	42	10.5
3月	0	11	0	4	35	8.7
年間統計	1人		2人	46日	468人	10.2人

5 高齢者生活支援ハウス

1. 生活支援ハウス利用状況

	新規 入居者数	退居者数	月間 入居者数		新規 入居者数	退居者数	月間 入居者数
4月	0	0	8	10月	0	0	7
5月	0	0	8	11月	0	0	7
6月	0	0	8	12月	2	0	9
7月	0	0	8	1月	0	0	9
8月	0	1	7	2月	0	0	9
9月	0	0	7	3月	0	2	7
				合計	2人	3人	9人

2. 年間行事・交流会

入居者同士の交流や地域との交流のため、行事の企画と参加を支援した。

月 日	行 事
7月 5日	七夕 茶話会
7月 28日	東蒲の里みかわ園 三涼祭に参加
9月 7日	阿賀町 敬老会に参加
9月 13日	敬老 茶話会
12月 20日	クリスマス・忘年会
1月 11日	だんごさし
2月 1日	節分豆まき

3. 介護サービス利用状況

利用介護サービス	利用入居者数
デイケア	2人
デイサービス・訪問介護	3人

6 新潟水俣リハビリ事業

1. 「らっくり体ケア教室」利用状況

	新規登録者数	登録者数	終了者数	事業日数	延べ利用者数	1日平均利用者数
4月	66	66	0	15	160	10.6
5月	1	66	1	19	205	10.7
6月	0	65	1	20	214	10.7
7月	1	66	0	22	260	11.8
8月	2	68	0	17	164	9.6
9月	2	70	0	19	190	10
10月	1	71	0	21	197	9.3
11月	1	72	0	20	222	11.1
12月	0	72	0	20	218	10.9
1月	1	71	2	19	195	10.2
2月	0	71	0	18	175	9.7
3月	0	71	0	1	8	8
年間	75人		4人	211日	2,208人	10.46人

2. 交流会行事実施報告

月 別	実 施 行 事	内 容
4月18日 ～24日	お花見会	・阿賀町内の桜を見に行き、桜を見ながら茶話会を行った。
5月28日 ～31日	お楽しみ会	・ホットプレートを使いお好み焼きを作り、美味しくいただいた。
6月25日 ～28日 7月1日	ハーバル パーク散策	・芦沢地区のハーバルパークを散策し、きれいな花を眺めながら茶話会を行った。
7月26日	第1回交流会	・三川温泉(まるに旅館)で温泉や美味しい料理を堪能し、ヨガインストラクションの成田さんによる「笑いヨガ」を楽しんだ。
8月30日	第1回研修会	・「食事と栄養について」 講師: 東蒲の里みかわ園(管理栄養士) 伊里陽一
9月9日	みかわ児童クラブとの交流会	・落語鑑賞: 世間亭東四郎 氏 ・交流レクリエーション ・トレーニングマシン体験
9月12日 ～19日	敬老会	・豆腐を使った団子をホットプレートで焼き、砂糖醤油をつけて美味しくいただいた。

10月24日 ～30日	お楽しみ会	・ハロウィンにちなんで、カボチャを使ったホットケーキ作りを行い美味しくいただきました。
11月1日	第2回交流会	・ブナの宿小会瀬で温泉や美味しい料理を堪能し、脳活性化体操や職員による余興、レクリエーションを楽しんだ。
11月27日	第2回研修会	・「感染症予防・体調管理」 講師:東蒲の里みかわ園(看護師) 波多野美寿子
12月19日 ～25日	クリスマス会	・職員がデコレーションしたケーキを参加者が切り分けて美味しくいただきました。千本釣りゲームで楽しみながらプレゼントを配った。
1月23日	第3回研修会	・「自宅でできるヨガ～心と体を整えて転倒予防」 講師:阿賀町地域包括支援センター 波多野由美子 氏
2月3日 2月7日	節分豆まき	・豆まきを行い、茶話会できなこ餅、あんこ餅を美味しくいただきました。

7 外出支援サービス事業

1. 外出支援事業利用状況

実績		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間 実績
利用件数		8	7	5	10	7	6	4	5	5	3	3	3	66件
地域	郡内	4	5	4	7	5	5	4	5	5	2	3	3	52件
	郡外	4	2	1	3	2	1	0	0	0	1	0	0	14件

2. 外出支援状況

利用目的	受付件数	実施件数
受診移送	66件	61件
入院移送	2件	0件
退院移送	7件	5件
外出移送	0件	0件

月平均利用件数	5.5件
一件の平均距離	55.0 km
一件の平均所要時間	3.0 時間

8 東蒲の里みかわ園 研修報告

1. 外部研修種別の内訳

項 目	内 容	主 な 研 修
技 術 向 上 人 材 育 成	職務を遂行するための技術及び質の向上を目的とした研修 現場実践に必要な基礎知識等の習得及び、対人援助に必要な伝える力の理解を深めることを目的とした研修	介護力向上研修会
		新潟県老人福祉施設協議会第1回管理者研修会
		福祉職員が見につけておきたいビジネスマナー
		社会福祉施設の食品取り扱い者衛生講習会
		第一ブロック部会研修会
		新潟県老人福祉施設協議会第2回管理者研修会
		認知症介護実践者研修会
		第24回老人福祉施設研究大会
		喀痰吸引等研修
		安全運転管理者等講習
		医療・介護連携強化に向けた特定求職施設等研修会
		高齢者介護施設等感染症対策研修会
		新潟ケアガイド研修会
		施設における感染症対策研修会
初級リスクマネージャー養成講座		
そ の 他	情報管理説明会など	通所介護事業集団指導

2. 内部研修参加状況

開催日	研修名	対象職員 (人)	参加者数 (人)	出席率 (%)
5月14日 5月28日	・食中毒について ・身体拘束・高齢者虐待について	57	45	78.9
6月11日 6月25日	・褥予防について ・災害マニュアルについて	55	39	70.9
7月10日 7月17日 7月24日 7月31日	・救急法講習	59	59	100
8月27日	・リスクマネジメントについて ・認知症ケアについて	53	33	62.2
9月11日 9月18日 9月25日	・法令遵守について ・個人情報保護について ・虐待防止について	58	55	94.8
10月28日	・メンタルヘルスケアについて	58	34	58.6
11月26日	・口腔ケアについて ・感染症対策実践について	59	34	57.6
12月18日	・腰痛予防について ・安全で負担の少ないトランスファーについて	58	20	34.4
1月14日 1月28日	・防災マニュアルについて ・ターミナルケアについて	59	39	66.1
2月25日	・身体拘束・高齢者虐待について ・リスクマネジメントについて	58	24	41.3

※7月、9月は法人合同で実施。

3. 研修報告(総括)

① 外部研修

- ・各種外部研修で習得した知識、技術を各事業における研修で周知し、職員のスキルアップやサービス向上につながった。

② 内部研修

- ・外部講師を招いて口腔ケア、嚥下のメカニズムについての知識を習得した。
- ・3月に予定していた3年目研修発表会は、コロナウイルス対策のため中止し、次年度に行うこととした。
- ・研修会の出席率を上げるため試験的に5月、6月、1月(法人合同研修以外)の研修を2回開催にした結果、1回開催に比べて出席率が高かったため、次年度もできるだけ開催日を2回にして計画する。

9 東蒲の里みかわ園 ボランティア活動状況

開催月	活動内容	参加者数
6月	・新発田市のボランティア(チーム・アイビー)による演歌、歌謡曲。	3人
7月	・施設外周及び中庭の草刈り。 ・三涼祭(夏祭り)屋台など。 ・毎週火曜日と金曜日に玄関ロビーで行っている喫茶店でコーヒーやお菓子の用意や利用者と会話など。	57人
8月	・毎週火曜日と金曜日に玄関ロビーで行っている喫茶店でコーヒーやお菓子の用意や利用者と会話など。	21人
9月	・毎週火曜日と金曜日に玄関ロビーで行っている喫茶店でコーヒーやお菓子の用意や利用者と会話など。	15人
10月	・毎週火曜日と金曜日にロビーで行っている喫茶店でコーヒーやお菓子の用意や利用者と会話など。	17人
11月	・毎週火曜日と金曜日にロビーで行っている喫茶店でコーヒーやお菓子の用意や利用者と会話など。	13人
12月	・毎週火曜日と金曜日にロビーで行っている喫茶店でコーヒーやお菓子の用意や利用者と会話など。	15人
合計		141人

10 東蒲の里みかわ園 災害対策

1. 避難訓練

開催月日	訓練内容	参加者数
6月19日	<p>〈東蒲の里みかわ園〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間想定避難訓練(緊急連絡訓練含む) <p>阿賀町消防本部立会いの下、夜間実際に緊急連絡網により職員を招集し、模擬利用者や車いすをご利用者に見立て避難誘導を実施。また消火器を使い初期消火訓練を実施した。</p>	37名 (職員)
10月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・日中想定避難訓練 <p>阿賀町消防本部立会いの下、避難訓練、初期消火訓練及び地震体験車両を使用して地震体験を実施した。 (近隣区長 2名参加)</p>	18名 (職員)
12月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害避難訓練(日中想定) <p>土砂災害警戒 レベル・ステージ3が発表された想定で実施した。</p>	12名 (職員)
2月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急連絡訓練 <p>夜間に緊急連絡網を使用し、職員への伝達訓練を行った。</p>	53名 (職員)

2. 消防設備点検

開催月日	訓練内容
6月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・契約業者による消防設備の点検 <p>スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの設備の点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。</p>
7月3日	<ul style="list-style-type: none"> ・阿賀町消防本部による立ち入り検査 <p>施設内部の立ち入り検査を受けた。</p>
12月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・契約業者による消防設備の点検 <p>スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの設備の点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。</p>

11 東蒲の里みかわ園 苦情受付・対応報告

苦 情

<特養>

1. 利用者家族より

面会時、受付で対応した職員に「手洗い、うがいをしていただければ、フロアに入っているですよ」と言われたので面会をしていた。しかし、ある職員に「どこから入ってきましたか？面会はロビーなのですが・・・」と言われた。事情を説明したら「すみません・・・」と言っていたが、ドロボー扱いされた気分でした。他の面会者も同じような対応をされたら不快に感じると思いますので注意していただきたい。

・不快な思いをさせてしまったことを謝罪し、職員が認識の違いで対応方法を誤ってしまったことが原因であるため、全職員に周知し対応の統一を図った。

<要因:職員の態度>

<短期>

2. 利用者家族より

朝、そろそろ迎えに来る頃だと思い玄関に行くと、職員が立っていた。呼び鈴も鳴っていないので来たことが分からずビックリした。家族が話をしている時に職員がポケットに手を入れていた。また、同法人の他の施設を利用した際に、朝の挨拶も無かったことがあるため指導をしていただきたい。

・利用者ご家族に、お迎えの際の職員の対応について謝罪し、相手にとって失礼と思われる態度や言動について施設全体で見直し徹底した。送迎方法だけでなく、ご家族への対応方法についても注意し情報共有することを他事業所に周知した。

<要因:職員の態度>

苦情の発生件数

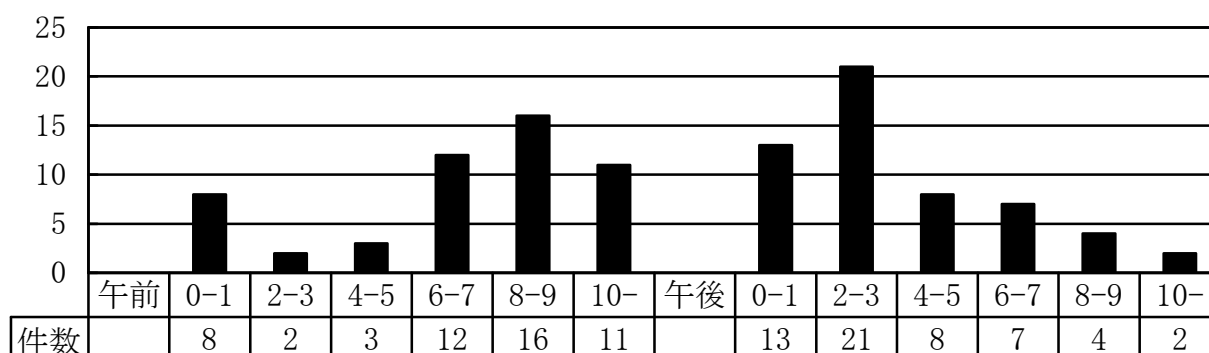
事業	件数
特 養	1 件
短期入所	1 件
通所介護	0 件
合 計	2 件

苦情の発生原因

内容	件数
説明・情報不足	0 件
職 員 の 態 度	2 件
サービスの質	0 件
サービスの量	0 件
権 利 侵 害	0 件
そ の 他	0 件
合 計	2 件

12 東蒲の里みかわ園 事故等発生状況報告

1. 時間帯別発生件数



〈発生件数合計 107 件〉

2. 場所別発生件数

発生場所	件数
居室	40 件
食堂・ダイルーム	34 件
トイレ	5 件
廊下・玄関	5 件
浴室	16 件
施設外	7 件
その他	0 件
合計	107 件

3. 内容別発生件数

発生場所	件数
転倒・転落	48 件
裂傷・火傷	18 件
打撲・皮下出血	20 件
チューブ抜去	3 件
私物紛失	1 件
無断外出	0 件
異食・誤飲	3 件
誤薬	1 件
車輛事故	7 件
その他	6 件
合計	107 件

4. 事故報告

・各事業所で事故等の発生後に原因の分析と検証を行い、また全職員で事故予防の意識を高める為、「ひやりハット報告」を一人2枚以上提出する取り組みを行って、発生件数については、平成30年度が151件であったが、令和1年度は107件に減少している。しかし、「転倒・転落」と「裂傷・火傷」、「打撲・皮下出血」の発生件数が減少していないことと、8時から9時と、午後の2時から3時の時間帯に事故が多く発生しているため原因分析と検証を行い、対策を周知徹底して事故予防に取り組む。

IV 令和元年度社会福祉法人東蒲原福社会

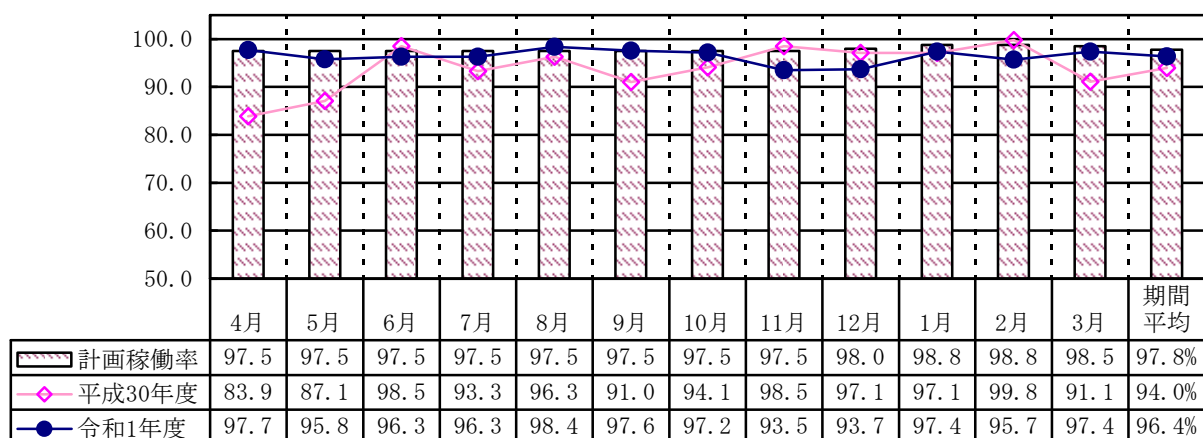
ケアセンターどんぐり 事業報告

	頁
1. 短期入所生活介護事業（ショートステイ）	7 0
2. 訪問介護事業（介護保険）	7 3
3. 小規模多機能型居宅介護事業	7 8
4. 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	8 3
5. 障害福祉サービス事業（障害者自立支援）	8 7
6. 軽度生活支援事業	8 7
7. 閉じこもり予防ケア訪問事業	8 7
8. 高齢者生活調査事業	8 7
9. まごの手サービス（介護保険外事業）	8 8
10. ケアセンターどんぐり研修報告	9 0
11. ケアセンターどんぐり災害対策	9 2
12. ケアセンターどんぐり苦情受付・対応報告	9 3
13. ケアセンターどんぐり事故等発生状況報告	9 5

1 短期入所生活介護事業

1. 施設利用稼働率

(単位：%)



※稼働率について

4～8月は1日定員(20人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

〈20人×153日=3,060日〉

9月より1日定員(21人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

〈21人×213日=4,473日〉

1年間の延べ利用日数が7,263日であったことから

$7,263 \text{ 日} \div 7,533 \text{ 日} \langle 3,060 \text{ 日} + 4,473 \text{ 日} \rangle = 0.9641$ 稼働率 96.4%

(延べ利用日数)

(実稼働日数)

2. 要介護度別利用延べ日数

	要支援		要介護度					計
	1	2	1	2	3	4	5	
平成30年度	259	283	911	2,157	1,242	1,336	673	6,861日
令和1年度	435	449	1,169	1,436	2,200	959	615	7,263日

3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数	35	37	43	34	38	42	45	37	36	39	36	39	38人
延べ利用日数	586	594	578	597	550	615	633	589	610	634	583	634	600日

4. 平均介護度及び平均利用日数(期間平均)

	要 支 援		要 介 護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
平成 30 年度	1.56	12.3 日	2.68	14.1 日
令和 1 年度	1.42	12.6 日	2.70	16.1 日

5. 要介護度状態の変化(令和 2 年 3 月にご利用されている方を対象とします。)

内容	要支援	要介護
改善	0 人	2 人
維持	4 人	29 人
悪化	1 人	2 人
合計	5 人	33 人

6. 年間行事報告

月 別	実施行事	内 容
4 月 16 日 ～23 日	花見	・城山公園と角神へ行き、桜を眺め気分転換を図った。
8 月 11 日	納涼祭	・津川民謡保存会による余興を観賞し、ヨーヨー釣りなどの催し物や屋台の焼きそば、フランクフルトを食べていただき、お祭りを楽しんだ。
9 月 29 日	敬老会	・式典と祝賀を行い、余興ではフラダンスと大正琴を観賞した。
10 月 30 日	バスハイク	・ホームセンタームサン新潟店へ行き、ペットショップで鳥やウサギを見ていただき、休憩時にたい焼きを食べていただいた。
11 月 2 日	秋の味覚祭	・鮭のちゃんちゃん焼きや栗ごはんなど秋の味覚を味わっていただき、余興では漫談やカラオケを楽しんだ。
12 月 23 日	クリスマス忘年会	・職員がサンタクロースになってご利用者にプレゼントをお渡しし、ケーキを召し上がってもらった。
2 月 4 日	節分	・鬼に扮した職員に向けて、ご利用者が豆をまき鬼退治していただいた。

7. 事業報告(総括)

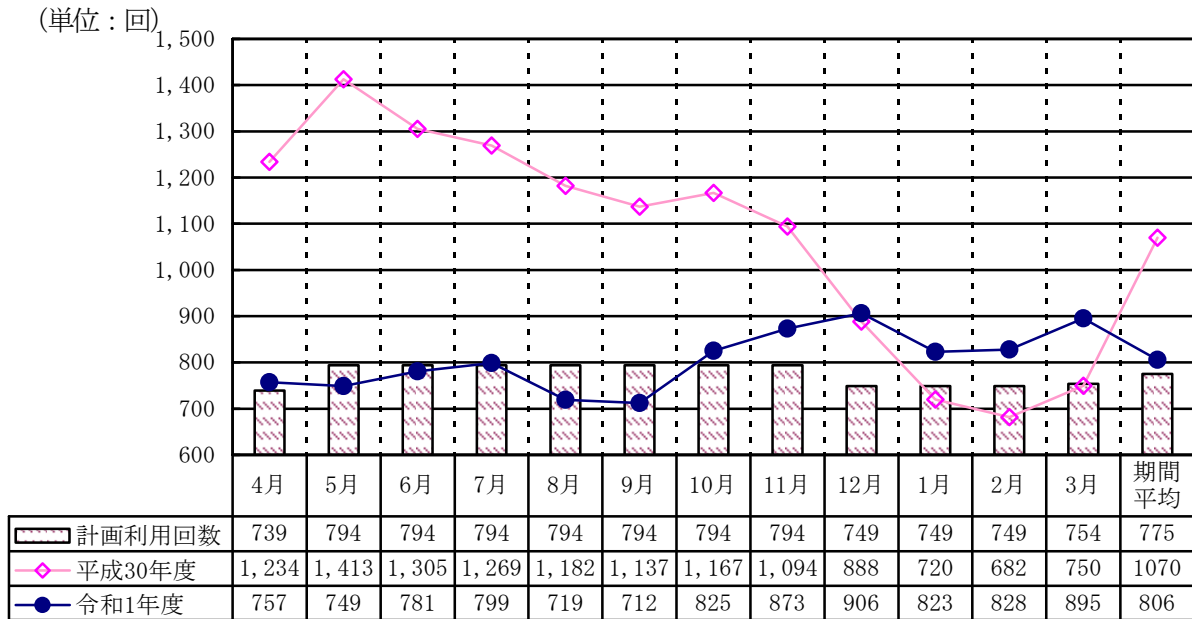
ご利用者が持っている能力を維持できるよう、個々の心身の状況に合わせたケアを実施します。	
取組事項	①ご利用者の心身の状況や援助内容を把握し、ご家族や関係機関、利用している福祉サービスと情報の共有に努めます。 ②収集した情報を職員全体で共有し、ケアの統一を図ります。
実績	①ご利用者の心身の状況や援助内容を把握するために、ご家族や関係機関から得た情報に加え、サービス利用中の様子を実際に確認し情報収集を行った。 ②毎月の会議で収集した情報を伝えたことで統一したケアが行えた。
課題と今後の取組	・会議で情報を共有するだけではなく、介護システムにより情報を随時確認しケアに役立てていく。また、職員間でケアが統一されるようカンファレンスを設けていく。

ご利用者が楽しく、いきいきと生活できるよう、行事や外出の機会を計画し実施します。	
取組事項	①風習や季節を感じられるよう、外出や地域行事への参加を積極的に行います。 ②ご利用者が自宅や施設にこもりきりにならないよう、地域との交流の機会を確保します。
実績	①お花見やバスハイクなど施設外へ行くことで春や秋を感じることはできたが、ご利用者と一緒に地域のお祭りへ参加することができなかった。 ②施設の周りを散歩しながら、時々地域の方と会話を通しての交流ができた。
課題と今後の取組	・年間行事計画以外に、ご利用者の要望を踏まえた内容で計画を立て実施していく。

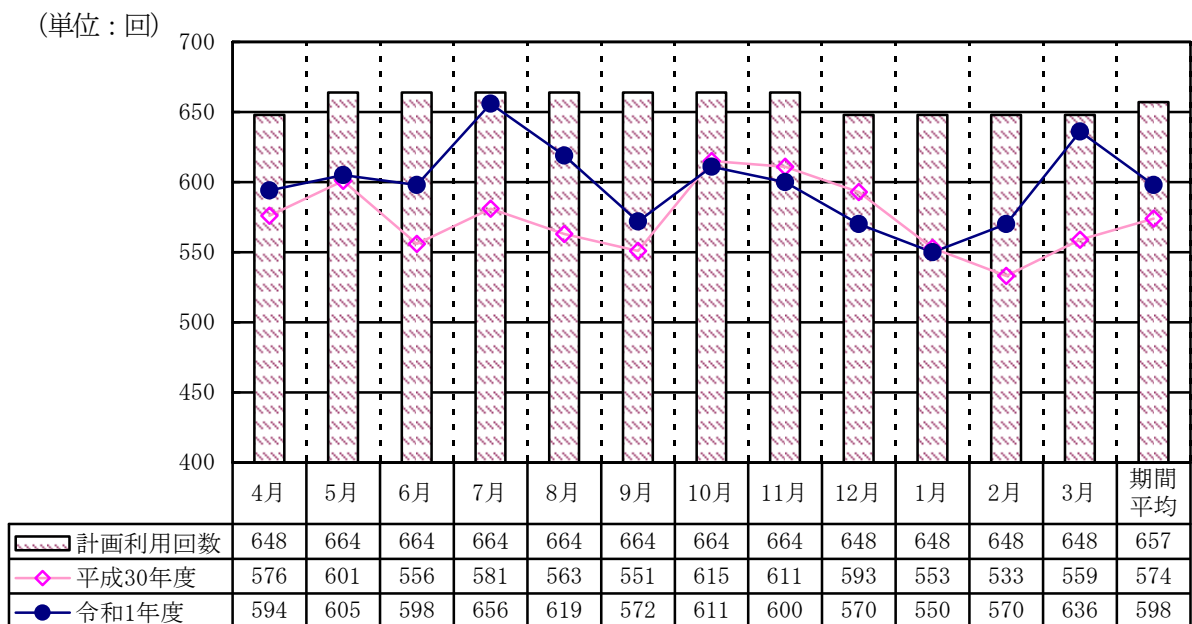
介護技術の向上を目指すと共に、専門性を身につけるために資格取得を目指します。	
取組事項	① 介護福祉士取得を目指し研修や勉強会に参加します。
実績	① 介護福祉士取得に対する勉強会などに参加することができなかった。
課題と今後の取組	・法人が実施する研修会と勉強会に参加し、介護福祉士取得を継続し目指していく。

2 訪問介護事業(介護保険)

1. 訪問介護月別実績状況

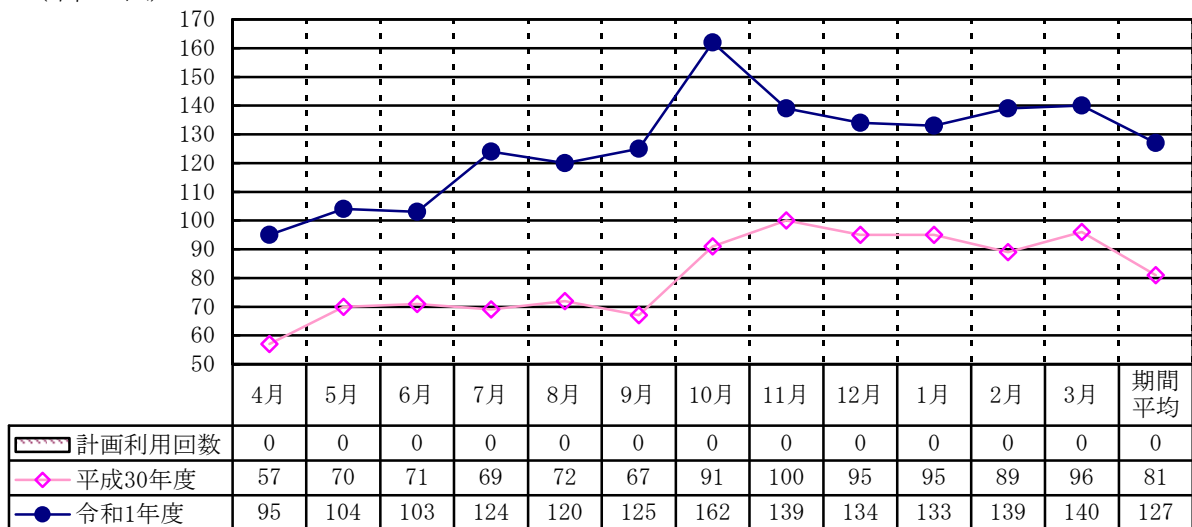


2. 予防訪問介護月別実績状況(事業対象者利用回数含む)



3. 事業対象者月別実績状況(事業対象者利用回数のみ抜粋)

(単位：回)



4. 月別利用状況(予防訪問介護事業、事業対象者含む)

月別区分	利用者数	利用状況			稼働率
		予約	キャンセル	実績	
4月	161人	1,507回	156回	1,351回	89.6%
5月	164人	1,494回	140回	1,354回	90.6%
6月	168人	1,471回	92回	1,379回	93.7%
7月	171人	1,565回	110回	1,455回	93.0%
8月	170人	1,530回	242回	1,288回	84.2%
9月	175人	1,432回	148回	1,284回	90.0%
10月	170人	1,615回	162回	1,453回	90.0%
11月	173人	1,600回	127回	1,473回	92.0%
12月	177人	1,873回	127回	1,746回	93.2%
1月	169人	1,484回	111回	1,373回	92.5%
2月	168人	1,505回	107回	1,398回	92.9%
3月	176人	1,626回	94回	1,531回	94.1%
計	2042人	18,702回	1,616回	17,085回	91.4%
月平均	170人	1,559回	135回	1,424回	—

※稼働率について

訪問介護事業の予約数を 100%として、それに対して実際に利用した実績がどの程度の割合かを表します。

利用実績が 17,085 回で、予約数が 18,702 回であったため、

$17,085 \div 18,702 = 0.9135$ 稼働率 91.4%

5. 利用者状況の変化

月区分	新規利用者	利用中止				
		施設入所	事業所変更	死亡	その他	計
4月	10人	0人	0人	0人	1人	1人
5月	9人	0人	0人	3人	1人	4人
6月	9人	0人	0人	5人	1人	6人
7月	6人	0人	0人	2人	1人	3人
8月	3人	1人	0人	2人	2人	5人
9月	4人	1人	0人	0人	1人	2人
10月	5人	1人	0人	1人	1人	3人
11月	5人	3人	0人	0人	2人	5人
12月	11人	0人	1人	2人	0人	3人
1月	7人	0人	0人	1人	0人	1人
2月	5人	1人	1人	1人	1人	4人
3月	4人	1人	0人	2人	1人	4人
計	78人	8人	2人	19人	12人	41人

6. 要介護度別利用延べ回数

	事業 対象者	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
平成30年度	972	3,898	2,022	3,993	2,397	1,117	2,547	2,787	19,733回
令和1年度	1,518	3,444	2,196	2,782	1,698	882	2,120	2,185	16,825回

7. 平均介護度及び平均利用回数(期間平均)

	要支援		要介護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用回数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用回数
平成30年度	1.27	6.3回	2.40	15.1回
令和1年度	1.28	6.2回	2.57	11.6回

8. 事業報告(総括)

阿賀町における地域コミュニティーの一員として、「暮らし」や「介護」の情報発信を行い地域福祉の発展に努めます。	
取組事項	① 地域行事に参加します。 ② 地域サロンへの参加機会を増やし、地域住民との交流を深めます。
実績	① 地域の清掃活動に参加した。また、秋の味覚祭では参加された地域住民やご家族と交流を図ることができた。 ② 地域サロンへの参加はできなかったが、地域の祭りや清掃活動に参加することで、日頃関われない地域住民の方々との交流の場を作ることができた。
課題と今後の取組	・地域行事や施設行事で地域住民との交流を図っていく。

専門職としての意識を高め、多様化する福祉ニーズに応えられるよう自己研鑽に努め、ケアの質の向上を目指します。	
取組事項	① 利用者ができることを奪わないケアを実践し、生活機能の維持を図ります。 ② 介護福祉士資格を取得します。 ③ 個別年間目標を設定し、技術や知識の習得に努めます。
実績	① 毎月開催する地区検討会で、利用者個々の情報を共有し、自立支援の視点からサービス内容の変更について担当のケアマネージャーや家族に提案することができた。 ② 受験資格を有する職員2名が受験し、介護福祉士資格を取得することができた。 ③ 個別年間目標について9月に面接を行い、進捗状況と下半期の取り組みの確認を行った。職員個々の目標達成に向け、外部研修への参加も予定していたが、感染症の流行により下半期の外部研修には参加できなかった。 阿賀町の看取り研修に参加した職員1名が復命した。
課題と今後の取組	・利用者ができるかぎり住み慣れた自宅で自信を持って生活していけるよう、専門的な視点な視点を養う機会を設けていく。 ・多くの職員が外部研修に参加することができ、目標を達成できるよう調整する。

地域医療や関係機関と「在宅看取り」についての課題を共有し、訪問介護に求められる役割を果たせるよう体制を整えます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 在宅看取りの実践をまとめ、居宅支援事業所に配布します。 ② 地域住民に向けて「最期まで自宅で過ごせること」の魅力を発信します。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 平成30年度までの在宅看取りについて、まとめ終えることができなかったが、阿賀町の在宅看取り実践研修会に参加し、実践例をもとに関係機関や地域医療など多職種と意見交換を行い、課題の共有を図ることができた。 ② 在宅看取りについてをまとめたものや、「最期まで自宅で過ごせること」の魅力について地域の行事など発信する機会を設けていく。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が「在宅看取」を選択したとき、スムーズに対応できるよう支所検討会で勉強会の機会を設けていく。 ・阿賀町における看取りに関する研修にできるかぎり参加し、在宅看取りの際の訪問介護の役割や実践例について学びの場を設けていく。

働きやすい職場に環境を整えます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① AからGの7つある勤務時間を積極的に活用し、時間外労働の削減に取り組むことでライフワークバランスの実現を目指します。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・AからGの7つある勤務時間とスライド勤務の活用を行ったが朝と夕方に訪問が集中していることで時間外労働時間に大きな変化はなかった。 また、登録ヘルパーにタブレット端末を貸与し、訪問先で記録を済ませることができるようになり、以前行っていた登録ヘルパーの記録を職員がシステムに入力する手間を省略することができた。 ・登録ヘルパーが用紙を取りに事務所に来る回数も減り、本来の登録ヘルパーの働き方とされる自宅から訪問先への直行直帰が可能となった。 紙ベースで残す記録が減り、コピー用紙の使用量を削減することができた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もAからGの勤務時間の活用と、スライド勤務の活用を継続し、時間外労働時間の削減に取り組んでいく。

3 小規模多機能型居宅介護事業

1. 介護度別登録者数

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要支援1	5	5	4	4	5	4	4	4	3	4	4	5	4.3人
要支援2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0人
要介護1	8	7	7	7	8	6	6	6	7	6	6	6	6.7人
要介護2	0	2	2	3	1	3	3	3	4	3	3	3	2.5人
要介護3	2	3	2	2	2	2	2	3	3	3	3	4	2.6人
要介護4	3	3	3	3	4	3	3	2	3	3	4	3	3.1人
要介護5	2	2	2	3	2	2	2	1	0	0	0	0	1.3人
合計	23	25	23	25	25	23	23	22	23	22	23	24	23.4人
稼働率	92.0	100	92.0	100	100	92.0	92.0	88.0	92.0	88.0	92.0	96.0	93.6%

※稼働率について

小規模多機能居宅介護事業の登録定員(25人)を100%とした場合の実登録者の割合を表しています。1年間の延べ利用者数が281人であったことから

$$\frac{281 \text{ 人}}{300 \text{ 人}} = 0.936 \quad \text{稼働率 } 93.6\%$$

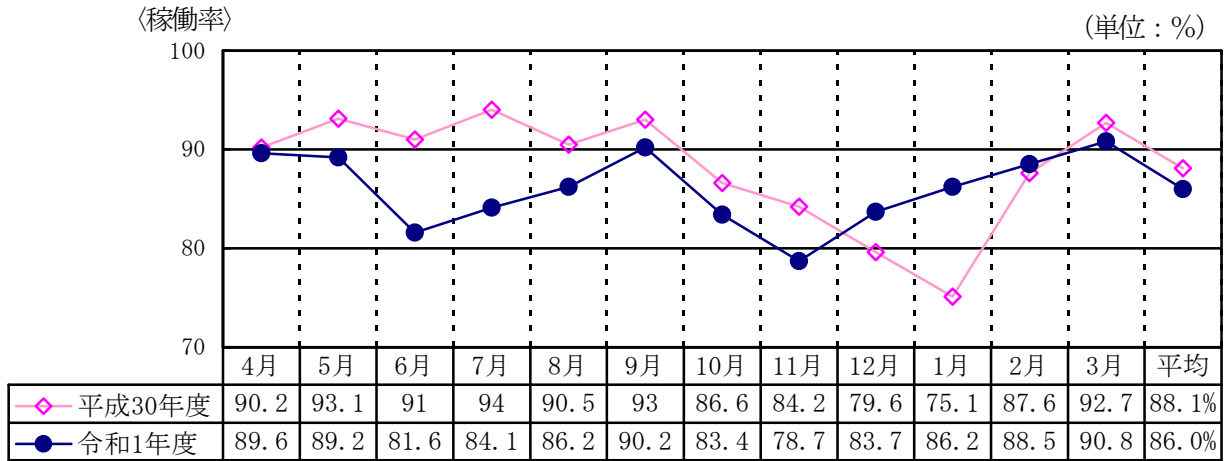
(延べ利用者数) (登録定員 25人)

2. サービス別稼働率

(1) 訪問サービス

月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数 (平成30年度)	11	11	10	10	12	12	12	12	12	12	9	9	11人
実利用者数 (令和1年度)	11	11	10	11	11	11	9	10	10	11	11	10	10.5人
延べ利用回数 (平成30年度)	209	204	204	221	232	257	250	190	174	163	101	134	195回
延べ利用回数 (令和1年度)	255	266	231	283	274	279	309	209	198	172	166	200	237回

(2) 通いサービス



※稼働率について

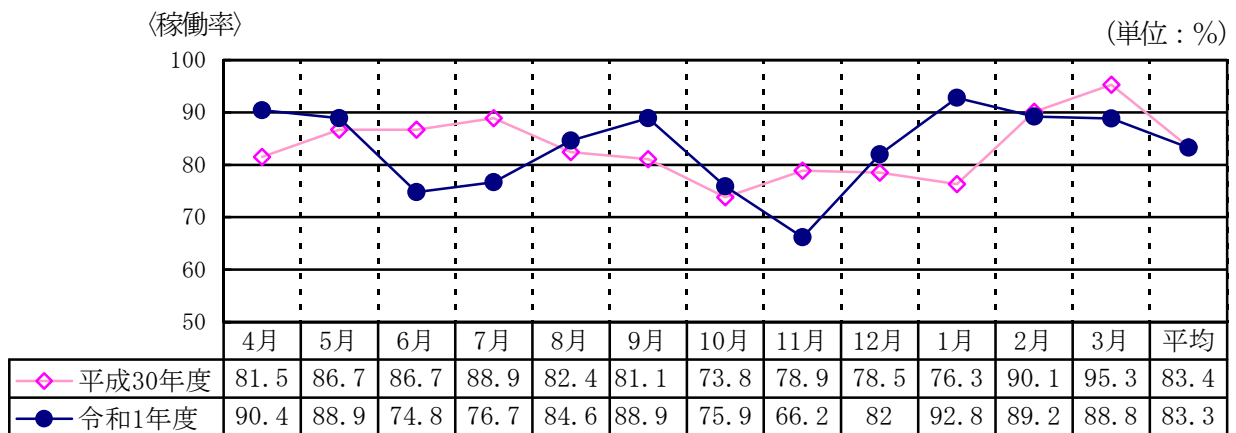
通いサービスの1日定員(15人)を100%とした場合の、延べ利用者数の割合を表します。

1年間の延べ利用人数が4,823人であったことから

$$\frac{4,722 \text{ 人}}{5,490 \text{ 人}(15 \text{ 人} \times 366 \text{ 日})} = 0.8601 \text{ 稼働率 } 86.0\%$$

(延べ利用人数) (定員) (実稼働日数)

(3) 泊まりサービス



※稼働率について

泊まりサービスの1日定員(9人)を100%とした場合の、延べ利用者数の割合を表します。

1年間の延べ利用人数が2,737人であったことから

$$\frac{2,744 \text{ 人}}{3,294 \text{ 人}(9 \text{ 人} \times 366 \text{ 日})} = 0.8330 \text{ 稼働率 } 83.3\%$$

(延べ利用人数) (定員) (実稼働日数)

3. 平均介護度

	要支援	要介護
平成30年度	1.38	2.50
令和1年度	1.41	2.37

4. 年間行事報告

月 別	実施行事	内 容
4月18日～ 4月21日	観桜会 ドライブ	・鹿瀬方面や上川地区にて桜の花を見ながら散歩や、茶話会で気分転換を図った。
5月25日	上川小学校 運動会見学	・子供たちの競技をにこやかに応援し楽しめる。踊りに参加されるご利用者もおられた。
6月9日	七福荘祭り	・七福荘のお祭りを見学。踊りや、景品付きのくじ引きで楽しまれた。
8月11日	夏祭り	・屋台にてカキ氷やわたあめなど振る舞い地域の方との交流、余興を楽しんでいただいた。
9月29日	敬老会	・式典と祝賀を行い、ボランティアによる余興を楽しんでいただいた。
10月6日	九島栗園	・地域の栗園に出向き、秋の味覚を楽しまれた。
11月2日	秋の味覚祭り	・秋刀魚や栗ご飯など秋の食を振る舞い、ご利用者やご家族、地域の方を招いて余興やで楽しんでいただいた。
11月4日	阿賀町作品展	・ご利用者が作った作品を展示会場で見学。
12月23日	クリスマス忘年会	・職員がサンタクロースになってご利用者にプレゼントをお渡しした。
2月4日	節分	・鬼に扮した職員が事業所を回り、ご利用者に豆まきをしていただいた。

5. 事業報告(総括)

ご利用者の自立を考えながら、多機能を活かした支援を行います。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ①ご利用者の目標を明確にし、個別援助計画の充実を図ります。 ②多様なサービスが提供できるよう業務、勤務体制の見直しを行います。 ③地域医療との連携を図り、ご利用者の心身の健康を支えます。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ①ご利用前に得た情報の共有や、状態変化があった場合について目標の見直しを行い、ミーティングにて情報の共有を図ったが、定期的な確認や見直しができないことで、統一したケアができないことがあった。 ②登録利用者の変更や、ご利用者状況の変更に伴う訪問や業務について、常に改善する意識を持ち、ご利用者の意向に沿えるよう対応した。 ③体調の変化や、在宅でのご利用者情報を医療機関と共有し、受診の調整や相談を行うことで、ご利用者の健康管理を行った。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者個々の目標や、細かなケアについての根拠を理解し、職員全員が統一されたケアの提供ができるようミーティング会議内容や周知方法の見直しを行う。

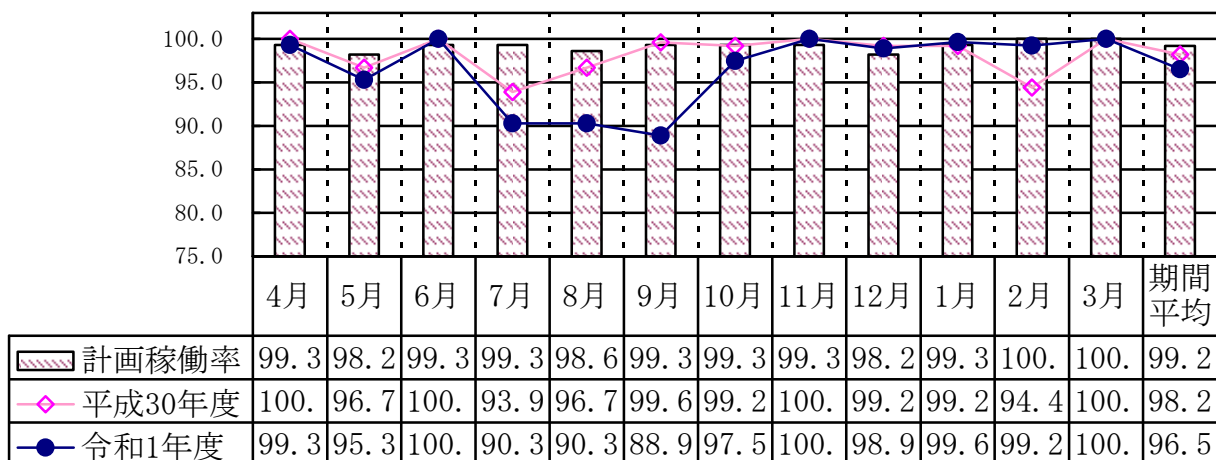
地域との交流を大切にし、地域に周知され、相談しやすい事業所を目指します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ①地域行事に参加します。 ②運営推進会議を活かし、事業所自己評価や会議で出た意見の改善に取り組みます。 ③ご家族や地域の方に施設行事に参加していただく機会を設けます。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ①地域への外出の機会を設け交流を図った。 ②事業所内部での評価について、コロナウイルス感染予防のため、書面の配布となり、委員の方々への説明が不足し外部評価につながりにくかった。 ③施設行事について、地域の方への周知が十分ではなく、地域の方の参加が少なかった。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流を継続し、事業所スタッフ全員が地域交流を意識した支援が行えるよう検討する。

ご利用者の日常生活が充実したものとなるよう、職員一人ひとりが専門職として自己研鑽に努めます。	
取 組 事 項	①介護福祉士の資格取得。 ②勉強会の計画、開催や、外部研修への参加で知識や技術の習得に努めます。
実 績	①介護福祉士実務者研修に参加し、資格の取得につながった。 ②ご利用者の状態や、事故防止への取組等、必要に応じた研修を事業所内で開催していたが、計画的に取り組むことができなかった。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得について取り組みを継続する。 ・職員が個々に研修の必要性について理解し、外部研修への参加や事業所内での研修について積極的に計画できるよう意識の改善を図る。

4 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)

1. 施設利用稼働率

(単位：%)



※稼働率について

認知症対応型共同生活介護事業所の1日定員(9人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。1年間の延べ利用日数が3182日であったことから

$$\frac{3,182 \text{ 日}}{3,294 \text{ 日} \langle 9 \text{ 人} \times 366 \text{ 日} \rangle} = 0.965 \quad \text{稼働率 } 96.5\%$$

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

2. 要介護度別入所者数(令和1年3月31日現在)

	要支援	要介護度					平均
		2	1	2	3	4	
平成30年度	0	2	4	1	1	1	2.44
令和1年度	0	1	3	2	1	2	3

3.年間行事報告

月 別	実施行事	内 容
4月22日	花見	・角神レークサイドの桜を見ながらおやつを食べ楽しんだ。
5月3日	狐の嫁入り	・狐の嫁入り行列に参加されている露店でご利用者の食べたい昼食を購入、イベントを楽しんだ。
6月9日	七福荘祭り	・七福荘のお祭りを見学。踊りや、景品付きのくじ引きで楽しんだ。
7月3日	バーベキュー	・グループホームのホールでお好み焼きや焼きそばを作り昼食に合わせて楽しんだ。
8月11日	夏祭り	・屋台にてカキ氷やわたあめなど振る舞い地域の方との交流、余興を楽しんだ。
8月26日	流しそうめん	・夏の風物詩である流しそうめんとスイカ割を昼食に合わせて楽しんだ。
9月10日	かっぱ寿司へ外食	・リクエストであったかっぱ寿司へ出掛け好きな物を食べてくることができた。1名のご家族も参加され、ご利用者と久しぶりに食事することができた。
11月2日	秋の味覚祭り	・秋刀魚や栗ご飯など秋の食を振る舞い、ご利用者やご家族、地域の方を招いて余興を楽しんだ。
11月3日	阿賀町作品展	・ご利用者が作成した作品や地域の方々が出展された作品を鑑賞した。
12月23日	クリスマス忘年会	・職員がサンタクロースになってご利用者にプレゼントをお渡した。
2月4日	節分	・鬼に扮した職員が事業所を回り、ご利用者に豆まきをしていただいた。
3月3日	雛祭り	・グループホームのホールでホットケーキを作りご利用者自らトッピングを行い雛祭りを楽しんだ。

4. 事業報告(総括)

ご利用者の有する能力に応じた自立した生活を送れるよう支援します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① ご利用者が役割を持って生活出来るよう、ご利用者に応じた日常生活上の目標を設定します。 ② 個別支援が出来るようにご利用者の心身の状態や有する能力の把握に努めます。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① ご利用者のADLを全職員で共有し、日常生活に活気が持てるようご利用者ごとの目標設定を行った。 ② ご利用者のADL維持及び向上のため、過去の生活歴や趣味等を全職員が把握しコミュニケーション等の研修を基に個別支援に取り組んだ。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 変化するご利用者の状態を把握し、一人ひとりの能力に合わせた個別の目標やレクリエーションに取り組めるよう支援していく。

認知症の進行を緩和しご利用者が穏やかな生活を送れるように支援します	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 認知症の症状に合わせた対応が出来るように認知症実践者研修など外部研修への参加や内部研修を計画的に実施し認知症のケア専門職としてスキルの向上を図ります。 ② 介護福祉士資格を取得します。 ③ ご家族及びご利用者の相互理解を深め、ご家族とともにご利用者を支えていけるよう信頼関係を構築します。 ④ レクリエーションや年間行事を充実させ、外出の機会を確保します。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 外部研修に参加した職員から、研修の復命を受け全職員が同じ内容を理解し知識の習得、向上を図ることができた。また、認知症に関する研修を行い、スキルの向上に努めた。 ② 1名の職員が介護福祉士試験に臨み、合格することができた。 ③ ご家族へ定期的な電話連絡をし、受診や面会、カンファレンス時に来所されたとき等、ご利用者の状態を伝え信頼関係を構築しながら、状態の共有を図った。 ④ 年間行事を計画し、施設外へ出掛ける機会を確保することができた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症のご利用者様が穏やかな生活を送れるよう、全職員が更なる知識の習得と質の向上を図れるよう、研修や勉強会に積極的に参加し、日々の支援に活かしていく。

ご利用者の身近な存在として迅速に対応出来るよう取り組みを行います。	
取組事項	① 医療機関や関係機関との連携を図り病状や状況についての情報を収集します。
実績	① 医療機関・関係機関等と連携を図り、ご利用者の病状・状況を全職員に周知し悪化を防ぐことができた。
課題と今後の取組	・ 今後も関係する機関と連携を図りながら必要な情報を収集し、異変時には早期対応ができるよう努めていく。

5 障害福祉サービス事業

1. 月別利用状況

月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用者数	16	17	17	17	17	17	17	17	18	16	16	18	203人
延べ利用回数	244	246	250	267	253	256	254	240	236	226	242	277	2,991回

6 軽度生活支援事業

1. 月別利用状況

月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0人
延べ利用回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0回

7 閉じこもり予防ケア訪問事業

1. 月別利用状況

月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0人
延べ利用回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0回

8 高齢者生活調査事業

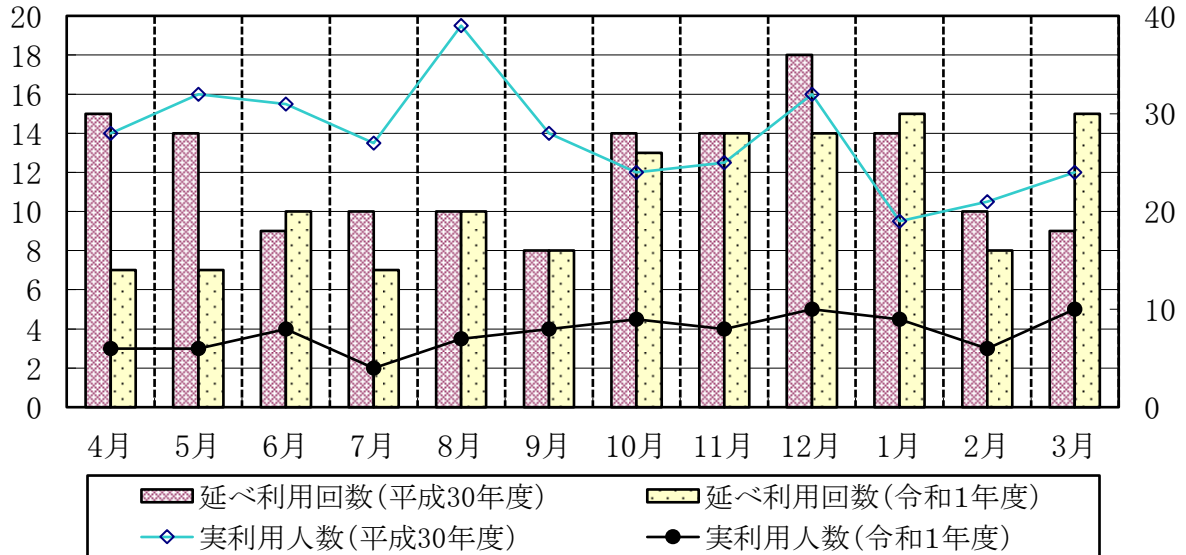
月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件

9 まごの手サービス（介護保険外事業）

1. まごの手サービス 事業利用状況

(延べ利用回数)

(実利用人数)



月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用人数 (平成30年度)	11	11	9	10	10	8	14	7	18	14	10	9	131人
実利用人数 (令和1年度)	6	6	8	4	7	8	9	8	10	9	6	10	91人
延べ利用回数 (平成30年度)	15	14	9	10	10	8	14	14	18	14	10	9	145回
延べ利用回数 (令和1年度)	7	7	10	7	10	8	13	14	14	15	8	15	128回

2. 「見守り確認」安心サービス利用状況

月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用人数	6	6	7	7	9	9	9	9	10	10	11	11	104人
延べ利用回数	238	261	286	290	346	341	353	334	353	361	373	391	3,927回

3. 事業報告(総括)

独居や、家族の就業によって一人での時間の不安や心配を軽減します。	
取組事項	① 介護保険サービスと見守り安心確認サービスを組み合わせることで、在宅生活の継続が可能であることを提案します。
実績	① 体調不良時には離れて暮らす家族と連絡を取りながら、見守り安心確認サービスで柔軟な対応を行い、介護保険では賄いきれない介護の不足を補えたことで、施設入所ではなく自宅での生活を続けてもらうことができた。
課題と今後の取組	・何かあった時、見守り確認サービスを柔軟に活用することで利用者や家族が安心した自宅での生活を続けられるよう、家族とのコミュニケーションや対応について認識の統一を図っていく。

在宅サービスを利用中に家族が対応できない受診介助を行い、家族の負担軽減を図ります。	
取組事項	① 在宅サービス事業所と情報の共有を図り、スムーズな受診介助を行います。
実績	① 利用中のショートステイでの様子や、医療機関に伝達すべきことについて、受診の前に確認を行ったり、連携ノートに記載してもらうことでスムーズに受診介助が行えた。
課題と今後の取組	・利用者が安心して過ごせるよう、できる限り同じ職員が対応できるよう配慮していく。

10. ケアセンターどんぐり 研修報告

1. 研修種別の内訳

項目	内容	主な研修
技術向上 人材育成	職務を遂行するための技術及び質の向上を目的とした研修 指導的立場にある職員が指導、育成するための技術を学ぶ研修	平成31年度企画研修 第1回研修会
		コミュニケーションスキルアップ研修
		安全運転管理者等講習会
		介護事業所就労環境整備セミナー
		令和1年阿賀町地域リハビリテーション研修
		介護力向上講習会
		社会福祉施設安全管理研修
		8050阿賀町シンポジウム
		安全衛生推進者養成講習
		サービス提供のプロセスの理解
		令和1年度訪問介護事業所集団指導
		訪問介護計画作成・展開研修
		令和1年度異業種研修
		認知症基礎研修
		令和1年度介護老人福祉施設集団指導
令和1年度同業種研修		
阿賀町在宅看取り推進のための研修会		

2. 内部研修参加状況

開催日	研修名	対象職員 (人)	参加者数 (人)	出席率 (%)
5月30日	交通安全講話	64	44	69
6月27日	認知症研修	64	44	69
7月10日 7月17日 7月24日 7月31日	救急法講習会	67	58	87
9月11日 9月18日 9月25日	法令順守 個人情報保護 虐待予防(身体拘束)	67	66	99
10月10日 10月17日	吐物処理	64	56	88
11月5日 11月6日 11月12日 11月13日	調理実習	41	33	80
12月11日	火災予防	65	45	69
3月	復命会 3年目研修発表	新型コロナウイルス感染症 予防のため開催せず		

3. 研修報告(総括)

①外部研修

- ・外部研修受講者からの復命を受けることで、新しい情報や技術を身につけサービスの向上につなげることができた。

②内部研修

- ・内部研修では年間計画を作成し、定期的に研修を行うことで個々のスキルアップにつなげることができた。

11 ケアセンターどんぐり 災害対策

1. 防災伝達・避難訓練

開催月日	訓練内容	参加者数
6月19日	防災伝達訓練 ・夜間に緊急連絡網を使用し、伝達訓練を行った。	64名
7月10日	避難訓練 ・阿賀町消防署員立ち会いのもと、職員、ご利用者参加による避難訓練を実施した。	18名 (職員) 20名 (利用者)
12月4日	夜間想定避難訓練 ・阿賀町消防署員立会いのもと、職員による避難訓練を実施した。悪天候によりご利用者の参加は中止とした。	37名

2. 消防設備点検

開催月日	点検内容
毎月、防災委員で表を用いて、自主点検を行っている。	消化器具、自動火災報知設備、消防局火災報知設備、非常警報器具及び設備、誘導灯及び誘導標識、非常電源(自家発電設備)

3. 作成

作成日	内容
4月1日	緊急連絡網の作成、災害時対応マニュアルの改訂。
1月30日	防災(防火・震災等)計画作成。
7月1日	緊急連絡網の連絡経路を一部修正し職員に配布

4. その他

- ・12月13日 阿賀町消防署立会い検査実施。

12 ケアセンターどんぐり 苦情受付・対応報告

苦 情

<訪問介護事業所>

1. 地域住民より

販売車両を止めていたら訪問介護員の運転する車が通りかかり「通れません」と言われたので、「すみません」と言い車を移動した。再度「すみません」と頭を下げたが、訪問介護員はなにも反応せず、そのままスピードを上げて走っていった。狭い道路に車を止めていた方も悪かったが、買い物されていた方が高齢であったため、スピードを上げていったことに危険を感じた。

- ・事実確認を行うと、移動してもらい通過時には会釈をしたが挨拶まではしなかったことが分かった。また、訪問先に向かう途中で時間は気になっていたが、スピードを出して走り去った覚えはなかった。
 - ・地域住民に対する挨拶などの対応がきちんとされなかったため、印象悪く感じさせた可能性があり、それも苦情の原因の一つと考えられる。とうかん福祉サービスの職員であることを常に意識し、こちらから挨拶や言葉かけをすること、常に地域住民に見られていることを認識し、安全運転を心掛けるよう指導した。
- < 要因: 職員の態度 >

<小規模多機能事業所>

1. ご利用者家族より

介護保険更新申請により5月から要介護1から要介護2に変更となったが、利用料金の説明なく請求書が届いてびっくりした。利用料金が上がったことについて説明すると言っていたのに来ないので、今日来てほしい。

- ・介護度が変更になった際、電話にて説明し「詳しいことは後日説明にいきます」と伝えていたのだが、説明に行かず時間が経過してしまった。訪問し、ご家族に謝罪と料金説明を行ったが、現在の利用状況やケアの内容にも不満があることも分かった。
- 介護保険更新の際は事前に料金説明を行うとともに、日ごろからご家族とコミュニケーションを図り、様々な要望について聞き取りを行うことなど業務内容の再確認をした。
- < 要因: 説明・情報不足 >

2. ご利用者家族より

訪問に来た職員が、トイレをビシヤビシヤにしたまま帰った。俺も今回は許せない。電気をつけてやっていいと言ったのに電気もつけずにやっていった。同職員については今までも使ったものを片付けていかなかったり、皿を割ったことがあるので、もう来てほしくない。

・連絡を受け管理者と対応した職員で自宅へ伺い謝罪を行った。
 現場確認を行うとトイレ前廊下、トイレ内の床や手すり、トイレ内の壁、フロアマット、トイレ入口ドアが水浸しになっていた。おむつ交換後バケツの水を処理する際、トイレでバケツの取手が外れ床に水を撒いてしまった。電気を付けずに見える範囲で掃除を行ったため、全く片付けができていなかった。
 訪問した際は必ず最後に環境の確認を行うこと。トラブルがあった際には必ずご家族への説明と謝罪を行い、報告をすることを徹底した。
 <要因:サービスの質>

<短期入所生活介護事業所>

1.ご利用者ご家族より

送迎に来た職員に連携ノートに書いてあったことを確認すると、事実でないことを言われ納得がいかない。どんぐりを使い始めたときには、送迎に来た職員が挨拶もせず立ったままだったこともあり、社会人としてそれでいいのか。

・生活相談員が自宅へ伺い謝罪を行い、正確な情報をお伝えした。
 ご家族からの質問などに対し、迷うことや返答に困ることがあればしっかり事実確認を行い、ご家族に分かりやすく説明を行うこと。また、送迎時など挨拶ははっきりと聞き取りやすい声でするように全職員へ指導をおこなった。
 <要因:サービスの質>

苦情の発生件数

事業	件数
訪問介護	1件
短期入所	1件
小規模多機能	2件
グループホーム	0件
合計	4件

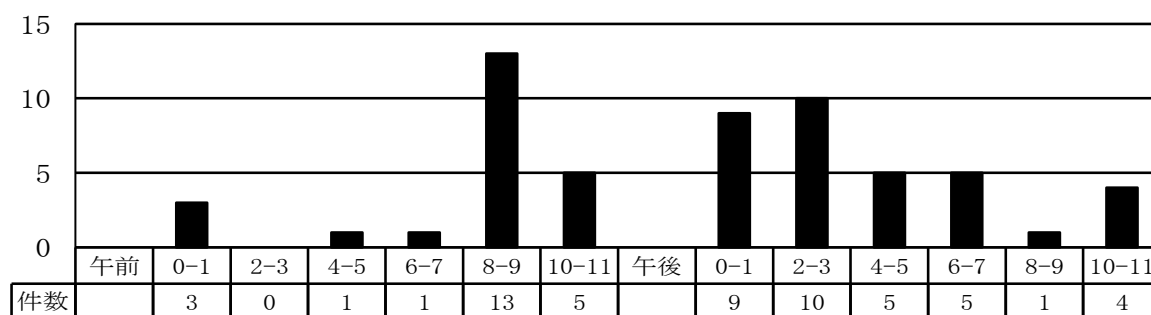
苦情の発生原因

内容	件数
説明・情報不足	1件
職員の態度	1件
サービスの質	2件
サービスの量	0件
権利侵害	0件
合計	4件

13 ケアセンターどんぐり 事故等発生状況報告

1. 時間帯別発生件数

(単位：件数)



〈発生件数合計 57 件〉

2. 場所別発生件数

発生場所	件数
居室	18 件
ホール	11 件
トイレ	2 件
廊下・玄関	4 件
浴室	0 件
施設外	6 件
利用者自宅	10 件
その他	6 件
合計	57 件

3. 内容別発生件数

事故内容	件数
転倒・転落	25 件
裂傷	0 件
打撲・皮下出血	3 件
チューブ抜去	0 件
無断外出	2 件
私物紛失	2 件
異食・誤飲	0 件
誤薬・服薬忘れ	12 件
車輛事故	4 件
その他	9 件
合計	57 件

4.事故等発生状況総括

事故発生件数については、平成30年度の49件から令和1年度は57件と増加しています。事故の内容は転倒・転落が25件、続いて誤薬・服薬忘れが12件と多くなっており、

転倒・転落についてはその都度事故原因の分析と検証、対策の検討と対策の実施を行っています。同じご利用者において複数回の事故発生には繋がっていません。また、誤薬・服薬忘れについては、薬の管理の方法や薬を服用するまでの確認を徹底することで改善を行っています。

今後も職員の事故予防に対する意識を高め、事故原因の分析と検証、対策・対応を継続し、事故減少の取り組みを行ってまいります。